

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2017

4

第13号

特集 **春の里をゆく**



球磨川温泉「鶴之湯旅館」の春 © つる詳子

月に願いを。

織月

Japanese Traditional Rice Shochu
SENGETSU



織月城（人吉城跡）にて撮影

織月酒造株式会社
SENGETSU SHUZO CO.,LTD.

〒868-0052 熊本県人吉市新町一番地 TEL0966-22-3207

飲酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁止されています。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発達に悪影響を与えるおそれがあります。

<http://www.sengetsu.co.jp/>

月刊 くまがわ春秋 第13号 2017年4月15日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759
<http://www.hitoyoshi.co.jp/> info@hitoyoshi.co.jp

定価 540円 本体 500円

雑誌 81779-04-7



4910817790475
00500

くまがわ野鳥だより③ 小川 一弥 / 10
 駅・ものがたり⑬ 「西人吉駅」 松本晋一 / 12
 最近のおもな出来事 / 17
 表紙写真説明 / 17
 文読む月日 / 17
 「二年すぎで」 須藤久仁恵 / 18
 紹介したいふるさとの宝② 松野翔吾 / 22
 「柴立姫神社」 補論② / 25
 「記憶の落ち穂」⑬ 坂本福治 / 27
 定吉が行く⑬ / 28
 「例大祭」 / 32
 医食同源⑧ 「民間療法」 浦川春加 / 34
 くまがわすじの考古地誌⑧ 木崎康弘 / 36
 『忘れられた人類学者』を読む 東慶治郎 / 40
 「はじあい」と「かちやり・かたり」 松本佳久 / 42
 今月の詩⑬ / 43
 柳人があじわう漱石俳句⑬ いわさき楊子 / 44
 ツクシイバラ「おもてなし」 尾方洋子 / 45
 俳句大学「今月の秀句②」 永田満徳 / 47

集 特

春の里をゆく
 ① 世界かんがい施設遺産の里を歩く / 2
 ② 大人の修学旅行 / 5
 ③ さかもと菜の花フェスタ / 8

あがつ段⑪ 上杉芳野 / 48
 不知火海の自然・生活⑦ つる詳子 / 50
 「種子法が廃止されました」 磯田 毅 / 54
 「茶摘み」 久馬 俊 / 56
 建築みてある記「金波楼」 森山 学 / 57
 新・日曜釣り師心得② 宮原赤竿 / 61
 方言を味わう⑩ 前田一洋 / 64
 みちのく南相馬紀行② 那須智治 / 66
 外来語から学ぶ英単語⑬ 藤原 宏 / 71
 ひろしのげっかん・ぎひょう / 71
 「西南戦争」 百四十年① 益田啓三 / 72
 江戸時代の事件簿 / 76
 いもご短歌会 / 77
 東京オリンピックピック⑫ 刈田吉富 / 78
 齢八十二年生の雑言⑦ 富永和信 / 80
 「女裁判」 上村雄一 / 82
 字図で見る球磨の地名⑫ 上村重次 / 84
 おっとわつとあずび② 松舟博満 / 86
 くまがわ学習塾④ / 88
 鶴鴉短歌会 / 90
 倉敷便り④ 原田 正史 / 91
 前号「くまがわ学習塾③の答え」 / 95

グラデーシヨン

南風が吹き始め、今年もツバメが帰ってくる季節がやってきた。不思議なことに毎年同じ場所に巣を作り、卵を産み、子育てをして、子が巣立つといつの間にか親ツバメもいなくなってしまう。ツバメの寿命はどのくらいだろうと思いついたら、平均1・5年、その一生の間を渡りができるのは2〜3回で、台湾・フィリピン・ジャワ島などで越冬しているらしい。ということは、毎年来ているツバメは同一鳥ではない可能性が高いようだ。鳥社会にはネットやSNSは存在しないだろうから、持ち前のDNAが教えてくれるのか。

今年も対でやって来て、高く低く飛びながら、いつもの場所で巣作りを始めるだろう。鳥の目から見たら、私たちはどんな風に映っているのか。空を舞いながら初夏へと移り行く球磨川のほとりや田植えが始まるうとして田んぼの様子をどう見ているのだろうか。

想像を膨らましていくと、私たちの暮らしている中で起る煩わしいことなど宇宙を彷徨う塵みたいなものなのだろうなと思いつつと力が抜け、笑ってしまう。ツバメが来る風景が100年先もずっと続く地域であってほしいと願いながら、私は地上から日々少しずつ変化していく田畑や山々のグラデーシヨン(グラデーション)を朝夕眺め、一年で一番好きな春から夏へと向かう自然界の移り変わりを楽しんでいる。

(桑原史佳)



春の里をゆく

① 世界かんがい施設遺産の里を歩く

昨年11月に「世界かんがい施設遺産」に登録され、史と魅力に触れる登録記念「ウォーキングイベント「春の奥球」幸野溝と百太郎溝の歴史」幸野溝・百太郎溝を歩

こ「う」が3月25日、湯前町と多良木町を中心に開催された。(編集部)



湯前町の幸野溝隧道の入り口



当日歩いたコース (水土里ネット作成資料より)

このイベントは、300年以上もの歴史を持つ球磨郡の水路の重要性を学び、春の奥球磨の豊かな自然や味覚を楽しむ目的で開催されたもので、水土里ネット幸野溝(宮原辰紀理事長)と同百太郎溝(岡村文明理事長)の主催。あいにくの雨にもかかわらず、地元はもとより熊本市や宇城市などから参加した53名が両施設の見学や地元文化財を探索した。

多良木町での開会式では、

宮原理事長が「昔の名こりが残る風景を楽しみ、両施設を散策して新しいものを発見してください」とあいさつしたあと、両溝の歴史と役割をまとめた動画が上映された。

最初の目的地である湯前町の幸野溝では小水力発電所を見学したあと、竹灯籠を設置した隧道に入った。このトンネルは約300年前に薩摩藩か

らの技術援助を受け掘られたもので、旧貫、第三の貫、新貫の三つがあり、この日は約南北に665メートルある新貫を探索。ヘルメットをぶついたり、足元を気にしながら、先人が手掘りした歴史を感じる空間を見学した。

多良木町の百太郎公園では、第一期の掘削工事は16世紀末ごろといわれる同溝の歴史の説明を受け、昭和

35年完成の現在の堰、町指定文化財の「百太郎溝取入口旧樋門」を見学。百太郎溝沿いを歩きながら同溝が水を運んで潤す田畑などを見て回った。

湯前町の下村婦人会の手作りの料理で昼食をとったあと、多良木町観光案内人協会の蓑田温子さんによる同町の文化財の説明を受け、午後からの見学がスタート。



小水力発電所前で説明を受ける参加者



おおよそ300年前に手掘りされたという隧道の中



百太郎公園で説明する蓑田温子さん



山江村山田「高寺院」



「猫寺」の山門にて



玉垂をさわると御利益が…。

別名猫寺と呼ばれるとおり「化け猫騒動」の逸話が有名で、国重文の観音堂の中に参加者全員が入り、「時は天正十年の弥生半ばの事じゃった。ここは九州人吉の相良城下の物語」と静かに息を殺して前田さんの話が始まる。

高寺院より山田大王神社の前を通り、一路、水上村は生善院へ向かう。

高寺院はこの度、日本遺産となり大勢の参拝者が訪れている。

見学の後は全員に温かいお茶がふるまわれ、眼下に広がる山田の風景に目を楽ませていただいた。地元参加者、山田鶴子さんは小さい頃からこのお寺で遊んでいたとニコニコ顔で語った。この高寺院はこの度、日本遺産となり大勢の参拝者が訪れている。

② 大人の修学旅行

毎年春の彼岸に「大人の修学旅行」と称して地元の文化遺産を回る小旅行が企画され、3月20日に実施された。その旅の様子を追った。(編集部)

クロバスとワゴン車に乗り込み、引率の校長先生こと前田一洋さんのユーモア溢れる解説を聞きながら最初の訪問地、山江村山田の高寺院へ向かった。午前9時には高寺院住職に出迎えて



百太郎溝取入口旧樋門 (https://jnhksite.wordpress.com より)



- ・雨の中、幸野溝を探索する参加者 (左、水土里ネット提供)
- ・百太郎の碑がある慈願寺 (右下)
- ・歴史を感じさせる太田家住宅 (左上)



メモ



【百太郎溝】

延長約 19^{キロ}、多良木町とあさぎり町、錦町を流れ、かんがい面積約 1400^{ヘクタール}。住民総出の手掘り進められ 1710 (宝永7) 年に完成



【幸野溝】

延長約 15^{キロ}、かんがい面積は湯前町・多良木町・あさぎり町の約 1400^{ヘクタール}。大洪水の苦難を乗り越えながら 1705 (宝永2) 年に完成

慈願寺では、「袴に横縞のつぎをあたてた男を人柱に立てよ」という神のお告げがあり、その着物を着た悲劇の人物、百太郎の碑を見学。江戸時代後期に建てられた太田家住宅では、寄棟造りの茅葺きの屋根、幕末には焼酎を製造していたと記録に残っている

最終の見学地の多良木天満宮でも傘が手放せなかったが参加者は全員、元気に歩き抜いた。

「すぐ発ていま発て、じきに発て」と
 主命を帯びた藩士犬童九介が早馬に
 飛び乗って猫寺へ向かうのだ。途中の
 免田の茶屋で「ま、茶くなつと飲んで
 いきない」と焼酎を飲んでしまい、不
 覚にも寝込んでしまった。

翌朝、目が覚めて猫寺に駆けつける
 も、猫寺の法印盛誉は惨殺されてし
 まっていた。

それを怨んだ母親の玖月尼は愛猫の
 玉垂を抱いて市房神社に立てこもる。
 先ず己の指を噛みちぎりその血を神像
 狛犬に塗りつけて猫の玉垂にもなめさ
 せる。「ねぶれわが血ば玉垂よ、ねぶつ
 てわが意ば汲み取れや。仇に祟つてく
 れぞかし、仇をば呪うてくれぞかし」
 と語る声が観音堂の中で大きく響く。
 そして、「みや〜お〜ん！」とお
 堂のどこかで猫の音がするのだ。前田

一洋さんの独断場である。
 堂内の全員が生唾を飲んだ時に
 「ど、いうお話でした」と前田さんが
 話を結んだ。全員のため息が聞こえた。

湯前町は里宮神社の駐車場に着い
 た。近々、ここへ登る参道や駐車場
 が大きく整備される予算もついたらし
 い。里宮神社の拜殿前
 の鐘を鳴らし、賽銭を
 入れてパンパンと澄み
 切った境内に次から次
 とお詣りが続く。三社
 詣りの一つ目の神社で
 ある。

同神社の宮司様より
 拜殿に上がってよいと
 許可を頂き、全員で
 神妙に拜殿内のイスに



静寂の中立つ里宮神社



神妙に聞き入る大人の修学旅行生（里宮神社）

座った。先ずは、錦町からお越し頂い
 た福田晃市さんから「球磨」という戦
 時中の日本軍の船について、さらに人
 吉海軍航空基地跡についての最新の報
 告をして頂き、最後は宮司様より里
 宮神社の由来などをお話し頂いた。

湯前町は多良木にほど近い城泉寺で
 も阿弥陀堂に入つて前田さんのお話を

聞いた。お堂内の「阿弥陀三尊」につ
 いて大人の修学旅行らしく、きめ細か
 いことまでおよんだ。仏像が今に何
 を語っておられるか、仏像やこの建物
 についても詳しい解説があった。

仏様の光背や、そこにも仏様がお
 られるのを参加者の大平哲也さんがス
 ポットライトを当てて下さり詳細な部
 分まで見せて頂いた。

城泉寺の境内にある、十三重、九重
 七重塔にも詳
 細な説明を聞
 くことが出来
 た。

多良木町の
 青蓮寺には多
 良木町観光案
 内人の蓑田温
 子さんが阿弥



阿弥陀仏に見入る参加者（城泉寺）

陀堂の中で待つていて下さり、お内陣
 での見学が出来た。

青蓮寺の阿弥陀三尊は、先ほど見て
 来た阿弥陀三尊とは名称は同じでも、
 まったく異なった仏像に見えた。

城泉寺の阿弥陀仏はお座り
 されて大きい仏様だったが、こ
 こは違った。小さい、しかも立つ
 ておられ、少し前かがみの阿
 弥陀様のお姿であった。鎌倉の
 ころの仏師の作で京都のお寺に
 もいくつかの仏像を建立したと
 お話された。最後に、この
 阿弥陀仏の足先の爪に銀の板
 がはめであると聞き、全員は、
 阿弥陀如来仏の足先を凝視し
 ていた。

次の王宮神社へも蓑田温子
 さんに引率して頂き、神社の

由来や、熊本県で一番古いといわれる
 楼門の姿も詳しく解説して頂いた。

高寺院、生善院、里宮神社、城泉寺、
 青蓮寺、そして王宮神社が午前中の修
 学旅行の場所であった。



生善院（猫寺）観音堂（国重文）前にて

③ さかもと菜の花フェスタ

4月2日、菜の花や桜をながめながらウォーキング、サイクリング、カヤックなどを楽しむ「さかもと菜の花フェスタ」が坂本町（八代市）であつ



グリーンパークでの開会式

た。主催は坂本住民自治協議会主催で、約150人が坂本の春を楽しんだ。(編集部⑤)
 出発地は坂本駅近くの公園（グリーンパーク）。五所神宮、荒瀬ダムなどを眺めながら目的地をめざした。



五所神社。八代高専准教授の森山学さんが解説

人吉が通過したときには、参加者はさかんに手をふった。

都市部からの参加者が多く、山里の自然に満足したようだ。昼食は鮎

帰会作成のお弁当、地元のシシ汁などであった。



葉木橋を渡る



記念撮影



SL人吉に手を振る参加者

休憩地では、地元住民から、ぼた餅などがふるまわれた。
 肥薩線と並走するコースで、SL



水中の魚を捕獲したあと飛び上がる
カワセミ (球磨村渡付近にて)

色あざやかな 青緑の光沢

カワセミ ①



翡翠

Megaceryle lugubris

撮影／小川一弥

水面を直線飛行
する「溪流の宝石」

知名度抜群のカワセミ(翡翠・川蟬)は、ブツボウソウ目カワセミ科に分類される留鳥で、全長約17cm。くちばしは体の割りに長く、魚取りにすぐれた鳥である。水辺に生息し、鮮やかな水色の体色と長くくちばしが特徴。日本全国で見られる人気のある鳥で、八代市の市の鳥にもなっている。

鮮やかさの秘密

カワセミの青色は色素によるものではなく、羽毛にある微細構造により光の加

減で青く見える。これを構造色と言い、シャボン玉がさまざまな色に見えるのと同じ原理である。

この美しい外見から「溪流の宝石」などと呼ばれる。特に両翼の間からのぞく背中の水色は鮮やかで、光の当たり方によっては緑色にも

見える。漢字表記が宝石のヒスイと同じなのはこのためである。

オスのくちばしは黒いが、メスは下のくちばしが赤いので区別できるといふ。

【おがわ・かずや／全日写真連・熊日フォトサークル会員、球磨郡球磨村】



魚を捕獲後はくわえ直し、頭から呑みこむ

河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅・ものがたり



連載その⑬ 西人吉駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一

渡駅の南、球磨川の熊太郎ノ瀬を上ると二王子神社の先に、城山トンネル（257・2m、**図①**）が見えてくる。その先には涼戸ノ瀬、くずノ瀬が在り、対岸は人吉市大柿地区になる。この渡—人吉駅間の鉄道工事は明治35年1月に着工、城山隧道（坑門石造、外部はフランス積み煉瓦造り）は直ぐに完成するが、日露戦争のため3年振りに同39年度より再



図① 城山隧道



図② 石水寺



図③ 桜並木と“かわせみ やませみ”

着工。岩盤も弱く前田組が1年で完成させた。城山トンネルを抜けた左手、下原田西門には樹齢500年以上の海棠と眼鏡橋（1854年、石造り）で有名な鳳凰山石水寺があり、春には海棠祭りで賑わう。その先、線路は右寄りに千分の十勾配を少し登ると、左に撮り鉄の撮影スポットで有名な桜並木がある。満開時の撮影場所取り合戦が派手に

なり、一昨年秋にはこの丘陵中央の中原跨線橋の並木側にもフェンスが張られ、カメラマンアへの自粛が促された。

西人吉駅

その跨線橋から300m先に西人吉駅がある。1面1線の単式ホームで昭和27年6月1日、住民の請願駅として開業（**図④**）。場所は人吉市下



図④ 西人吉駅（下り）とホーム待合所（上り）



原田町1317番地、渡駅から3・1km、次の人吉駅までは3・4kmの距離にある。無人駅で名誉駅長は宮川秀喜氏。当時の駅候補地には温泉場を持つ中林町と、この下原田町の両方から駅請願が出されたが、隣接の渡駅との中間ということで、この荒毛地区に決まった。同時期に川線の鎌瀬海路、吉尾各駅も開業。駅用地は

人吉市が提供し、50mのホーム造りは地区住民らが奉仕作業（**図⑤**）をして、駅北側の土手からモッコで土を運んだとのこと（上田政一氏談）。その時の写真が待合所に掲示してある。上田氏は朝鮮から昭和



図⑤ ホーム造成の奉仕作業

23年の引き揚げでこの地に入植、その当時は約20戸の農家と6世帯の市営住宅が点在していたとのこと。ホームはのちに100mに延長され、ホーム渡駅寄りに簡易待合所が造られた。駅の清掃は近所の人々のボランティアで綺麗に管理されている。



図⑧ 万江川第一支流橋梁 (SL人吉下り)

二踏切があり、その南、坂上150mには国道219号線(図⑦)が走り、通りには西駅前バス停、縫製工場、木材会社、コンビニ、スーパー、レストラン数軒、温泉、ガソリンスタンドなど各商店で賑わう便利な土地柄で



図⑨ 人吉駅方面への直線(万江川橋梁下り方面)

ある。国道の南400mには明治31年創立の中原小学校が位置する。西駅から東方600mには万江川橋梁がある。暴れ川で川幅も広く、万江川第一支流橋梁、同本流、同第二と3つの橋梁が万江川の中州を渡る

ここから次の人吉駅まで2kmの直線(図⑨)が続く。昔は霧が深くて見通しも悪く、時おり線路や踏切での「汽車轢かれ(人身事故)」があったとのこと。旧国鉄時代の線路検査班員は、ほぼ毎日、一勝地から人吉までの路線を1日掛りで徒歩点検をしていたそうである。

西駅の南東2.1km、万江川河口の温泉町には人吉温泉と球磨川下りの発祥で著名な桂太郎命名の翠嵐楼すいあんろう



図⑩ SL初停車当日のホーム(福井弘氏)

加し、世帯数も増えたという。但し、欠点は運賃が近距離でも遠い次の駅と同額であることで、昭和50年代当時日本一高い運賃区間だったそうである。現在は人吉駅から西人吉駅までの料金は210円、同じくバスでは230円で、通学通勤以外の乗客は病院や買物等の目的により鉄道とバスを使い分けしているとのこと。平成21年4月は、1日約10人程度の利用で、学生の通学が殆どである。バスよりも待ち時間は長い、この春の時刻

駅の北側正面には簡易郵便局、理髪店、市営団地が5棟並び、閑静な住宅街となっている。駅脇に荒毛第

初めはジーゼル普通車のみ停車であったが、昭和45年10月1日、地元の要請により、通過していた下り門司港発・都城行のSL長距離列車が簡易駅に初めて通勤通学用に停

車。初日には女子高生が代表で乗務員に花束を贈呈、地元民の歓迎を受けた。駅の思い出(図⑩)がある。西駅と国道219号線のバイパスが出来てから、縫製工場や住宅が増



図⑦ 国道219号(人吉方面、中央左上が駅)

改正でも、この駅の停車は下り10本、上りが10本の停車があり、定時運行の鉄道利用はまだまだ廃れてはいない状況にある。

などがある。同主人の川野廉は鹿兒島本線開通の1年後、汽車開通による舟運船頭らの失業対策も含め、明治43年(1910)10月、後に観光の目玉となる「球磨川下り」の乗船場を創設(図⑩)。さらには人吉駅と温泉町を人力車や馬車、大正12年



図⑩ 昔の乗船場(昭和3年初三郎鳥瞰図部分)

(1923)4月には送迎用米国製グラント自動車や乗合自動車路線を運行するなど先進性を有していた(図⑪)。現在の地は「ぐま川下り」のミドルコース(50分)の終点(図⑫)となっている。従来の鎌瀬までのロングコース(2時間半)も今後の作戦次第で川船の需要が期待される。



図⑪ 旧翠嵐楼・人吉駅送迎用自動車



図⑫ 川船の搬送(翠嵐楼下)

〈参考資料〉
 ・「川野廉遺稿集」平成8年1月
 ・「西人吉駅」住民の心をつなぎ足を守るふるさと
 ・「肥薩線の駅シリーズNo.14」時代と共に」西人吉駅 平成21年4月3日 人吉新聞
 ・前掲「興味を本位とした新鉄道旅行案内」
 ・前掲「各駅停車」熊本県 昭和58年
 ・前掲「くまもとの駅と港」昭和58年
 ・前掲「肥薩線100周年・駅シリーズ」時代と共に、平成21年
 ・ウイキペディア「西人吉駅」
 ○聞き取り…上田政二氏

最近のおもな出来事

- 3月18日(土)
 - ▽人吉くま映画文化協会「ひとよし映画祭」『はなちゃんのみそ汁』上映会(人吉市カルチャーパレス、26日)(多良木町多目的研修センター)
 - ▽相良古文書研「かれあい歴史ウォーキング」須恵地区の文化財探訪
- 3月19日(日)
 - ▽球磨人吉地区県立高校4校合同説明会(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽第46回湯山温泉桜まつり(水上村タム湖周辺帯)
- 3月20日(月)「春分の日」
 - ▽相良三十三観音めぐり春の斉開帳(人吉球磨地域帯)
 - ▽「人吉球磨は、ひなまつり」エンディングセレモニー(ぐま川下り発船場)
 - ▽第3回あさぎり町「日本遺産文化財めぐり」
- 3月25日(土)
 - ▽城下町人吉の日本遺産を歩く「相良藩城下町コース」
 - ▽織月カップテニ大会(人吉市田野町テニコート)
 - ▽県内装飾古墳の春の斉公開(人吉市「大村横穴群」、錦町「京方峰横穴群」)
- 3月26日(日)
 - ▽世界かんがい施設遺産登録記念イベント「春の奥球磨*幸野溝・白太郎溝を歩こう!」(多良木町・湯前町)
- 3月26日(日)
 - ▽第6回大畑駅桜まつり(JR大畑駅周辺)
 - ▽海棠まつり(人吉市下原田町石水寺境内)
- 4月2日(日)
 - ▽さかもと菜の花フェスタ2017(坂本町周辺)

今月の一言

『文読む月日』

(レフトルストイ編著
北御門二郎訳)

より

人の悪口はみんな喜んで聞くもので、そのため自分の話し相手にその喜びを与えたいという誘惑に抗すること、つまり人の悪口を言わないでいることは、大変困難である。

表紙写真 「球磨川温泉・鶴之湯旅館の春」

球磨川沿いの桜満開! やはり地元のサクラは直に見た

くなる。咲き急ぐ桜に、今日ぐらいしか撮れないかもと雨の中を出かけた。(4月8日、八代市坂本町で)



撮影 つる詳子(八代市)

一年も経って

須藤久仁恵

「熊本地震って、本当にあつたんかしらねえ」と、思わずつぶやく買い物婦りのバスの中。市街地ではネオンが眩しく輝き、街灯が道路を明るく照らす。買い物袋を提げた人

やほろ酔い気分のグループ、スマホ片手の若者たちが賑やかに行き交う。

片や私の住む団地の棟の階段入口は、水場の枠が大きくひび割れ、コンクリート破片が転がっている。自営業の夫が事務所として入居している水前寺駅近くのビルも、外壁にはひびが入り、内装の壁紙も十文字に何ヶ所も裂けたまま。ビルには改修工事の足場が組まれているのに、工事の始まる気配はない。お客様に事務所までの道をご案内するのに「足場の組まれたビルです」と言わざるを得ない状況なのだ。

足場のあるビル。確かに分かり易いと言えは分り易いけど、それでもなあとという気分。

2016年4月14日と16日の大地震では、生まれて初めて感じたほどの恐怖を覚えた。逃げなくちゃ、ガラスだけがをしないように。それだけを思い、毛布をひっかけ真つ暗闇の中逃げた。ドーンと突き上げる大地、グラグラと揺れる大地にうずくまり必死で耐えた夜。あの混乱をよくぞ乗り越えたものだと、今になつて思う。



事務所のあるビルの外壁 (2017年4月6日)



事務所の壁紙の破損 (2017年4月6日)

地震直後、天草の知人が山のような弁当と保存食を持ってきてくれた。地震から3〜4日したところカセットコンロでお茶を沸かし、みそ汁を作った。温かなお茶とみそ汁の有り難かったこと。ガチガチに固まっていた身体と心が溶けていくようだった。

私の住む団地（少なくとも我が家）では、断水はなかつた。

多分、屋上の貯水槽の水が使えたのだと思う。ほとんどの住民は近くの避難所に逃げて、不自由な団地内で暮らす人はわずかだったのだ。しかしガスの復旧が遅れた。ガスが復旧したのは4月末。それまではカセットコンロで煮炊きをする毎日。グラツとするたびに、コンロの火を消して逃げ出す態勢をとったものだ。加えて風呂釜が洗い場に乗り上げて、ガス復旧後も風呂は使えず、使えるのは冷たいシャワーだけ。老齢の夫婦二人ですもん、風

呂に入らずとも大丈夫と思っていたが、さすがに一週間ほどたつと風呂に入りたい、温まりたいと思う。10日ほどたったころか？ 近くのスパに行き、二時間近く並んで入浴した。でも、浴場全体に漂うなんとも言えない「匂い」に閉口した（そのスパには、今も足を踏み入れることが出来ない）。自宅と事務所の食器はほとんどが割れてしまい、親せき



事務所の壁 (2017年4月6日)



崩壊したままの阿蘇大橋 (2017年2月28日)

からの援助でなんとか体裁を整えている。自宅の食器棚や本棚はゆがみ、戸が閉まらない状態だが、買い替える余裕はない。レンジも落っこちて変形したまま。詳細に見ればあちこちに不都合はあるが、何とか暮らせている。全壊、半壊のお宅に比べたら、なんぼのもんじゃ。

先日、所用で天草の苓北へ出かけてきた。久々に会おう古くからの友人知人たちに地震後の近況報告を話した。

「4月の大地震に遭い、とても怖い思いをしました。家から逃げ出し、車で泊まり、余震に怯え、という暮らしをしていました。でも地震直後から心に蓋をしていたようです。全壊、半壊のお宅や仮設住宅にお住まいの方たちに比べたら、私なんか軽いもん。このくらい平気よ。乗り越えられると思ひ込んでいました。でも、8月ごろだったかな、ふつと気が付いたんです。私は地震が怖かったんだ。度重なる余震が怖くて怖くてたまらなかつたんだ。ドーン、グラツと来るたびに震えあがっていたんだという事に気が付いたんですよね。いや、気が付くというか怯えていた自分を認めることが初めてできたんですね。

驚くと、夫が「これが普通なの」と言う。そうか、熊本は普通じゃないんだと思って切なかつたなあ。

復旧が着々と進むが、賑やかな街並みや「復興」に入り込めない私がここに居るのも事実、怖さに震えあがった私のも事実。何事もなかつたように蓋をし続けたのも事実。心



益城町堂園地区 (2016年5月30日)

のもやもやを整理するにはどうすればいい。大震災から立ち上がるには、ハード面だけでなく、被災者に「怖かつたなあ、辛いなあ、もう頑張らんでいいよ」と事実を丸ごと認め合い、

夫は4月の大地震直後から、熊本に滞在する外国人のサポートのために飛び回り(笑)、家にはいない。心細くて傍に居てほしいときに居なかつた。一人で必死に耐えていた…このことは一生、夫にチクチクと言いつつ続けます(笑)」。半分は笑い話で済ませたけど、実は笑い話にするには重たすぎて、時にわが心を持て余す。

団地の近くに、長年にわたり造園業者を入れて立派な枝ぶりの庭木を管理・手入れをされていたお宅があった。地震のちも壊れたブロック塀が修復されないなあと思っていたら昨年末、更地になり駐車場と化した。勿論、庭木は切り倒されてしまった。事務所の近くに建設業者の大きな自社ビルがあったが、それも半壊状態。つい最近そこが取り壊され、大きなビル建設工事が現在進んでいる。見渡す限りに見えていた青いビニールで覆われた屋根も、ほとんど姿を消した。

そういうえば、こういうことも。昨年夏、新幹線で夫の実家のある京都へ向かったときの話。熊本から福岡へ入ると車窓から見える景色がガラリと変わるのだ。家々の屋根にブルーシートがない。「青いビニールシートがないよ」と私が

許しあうことを伝える作業も要るよなあと今更ではあるが思っている。

「頑張れ! くまもと」に乗れない自分、頑張れない、取り残されてしまった感、という被災者の思いを、どうやったら掘り上げることができるのだろう。熊本地震の私の体験でもこうなんですもの。東北大地震、大津波、今なお収束の兆しを見せない原発、その被災者の思いはいかばかりだろうかと思像する。

もうすぐ大地震から一年、余震の数も次第に減り、夜中に怯えて飛び起きることもなくなった。ノープロブレム。問題は無い。問題は無い。もう大丈夫。もう地震が起きることとは無い。地下のエネルギーは消滅した…と、わが身と心に言い聞かせる。今なお、心のどこかに居座り続ける何かを持て余しつつ。

今回の原稿を書かせてもらったことは、私の心の奥底に積もったあれこれを整理する大きなきつかけを与えてくれた。有難いことだった。心から皆さんに感謝したい。

【すどう・くにえ。行政書士事務所勤務 熊本市】

紹介したいふるさとの宝②

郷土芸能—住吉谷「奴」(球磨村)

松野翔吾



球磨村神瀬地区に伝わる「奴」

奴という芸能は球磨村神瀬地区に伝わる狂言です。現存する演目は「鞍馬下り」と「都入り」の二種で川内川水系七集落(大岩・日当・永椎・四蔵・松野・上原・木屋角)の「住吉谷組」が継承しています。この住吉谷組には他にも「大江山」と「太田合戦」というのがありますが、長く上演されていません。

狂言は、はじめに「呼び」という者が登場、物語の大まかなあらすじを唄模様で語り、その後、鎧・兜・太刀・手甲・脚絆・草鞋を身に着け

た役者が出て、戦さや出会いの場面を大迫力で演じます。内容を見るといずれも鎌倉時代及びその前後を背景にしており、特に源平合戦の模様を題材にしたものが多く、源義経(牛若丸)や弁慶、伊勢ノ三郎など源氏の武将をはじめ、平重盛や景清という平家方の武将なども登場します。



「奴」のイメージ図

奴の起源について明らかではありませんが、せんが、明治の終わり、特に日露戦争のころが最も盛んだったといわれ、昔は太鼓踊りをした後の余興としてこの奴が踊られたと聞いています。昭和27年11月13日、住吉神社大祭に太

鼓踊りが奉納された当時の写真を見ることができました。それから一時途絶えるものの、当時を知る方々の記憶から言い回しや振りなどを再現し、昭和49年11月13日に行われた神瀬小学校創立百周年記念祭に、演目「鞍馬下り」が28年振りに上演され、圧巻の復活を果たしました。

その後は、地元の青年団に引き継

がれ、昭和54年に行われた第6回球磨村文化祭により演目「都入り」が新しく披露されました。奴の活動は海を越え、昭和56年12月3日から9日までの一週間は、熊本県主催の「日中友好の青年の翼」で中国を訪中し、南寧・桂林・上海の3ヶ所で19名の青年団が演舞し、公演のたびに盛大な歓迎と拍手喝さいを浴びたと当時のメンバーの方から話を伺いました。



昭和27年11月13日の奉納太鼓踊り



復活した奴(昭和49年)



日中友好の翼での奴の上演(昭和56年)





神事は20分間つづいた(上)
祭りの由来にしたがい「柴」が奉納された(下)



3月31日(旧暦3月4日)、球磨村淋地区で柴立姫神社の例大祭がとりおこなわれた。先月号で説明したように同神社は、下半身の病に効能(利益)があるとされ、

「柴立姫神社」補論②

編集部



復活した「太鼓踊り」(平成28年)

平成に入ると当時の青年団で活躍したメンバーも親になり、その子ども達で構成する「子ども奴」が立ち上がり(約30年前)、神瀬住吉神社例大祭への奉納をはじめ、各種地域の行事を賑わせました。現在は、「子ども奴」で活躍した世代も30代の親



牛若丸(左)が犬吠丸を国へ返す場面

になり活動の中心を担っているほか、平成28年11月12日の神瀬住吉神社大祭では、「太鼓踊り」を復活させ郷土芸能の継承活動にさらに力を入れています。地域振興の二役を担い、多世代にわたり多くの若者と共に活動してきた住吉谷「奴」ですが、演目は日本の歴史の中でも人気の場面を題材とし

ていることから、今後は日本を代表する芸能として、来る東京オリンピックの式典への出演を視野に入れて活動を続けていきたいですね。(笑)最後に演目「鞍馬下り」の中で大人気の場面を紹介します。場面は、関原与二が牛若丸に討たれ、この仇を打つために与二が「せがれ」の犬吠丸が牛若丸に挑むところです。

(犬吠丸のセリフ)「ヒヤ、与二がせがれの犬吠丸とは我がことなり、親の仇やらん、エイ」
犬吠丸は親の仇として牛若丸に斬りかかりますが、命は取らんとして国に返されます。威勢よく登場する子役の可愛らしさに会場の誰もが心をつかまれる人気の場面です。

【まつの・しょうご/球磨村】

お祭り当日も、高齢の女性を中心に地元球磨村のほか、水俣市・芦北町・八代市・人吉市など参拝者で賑わった。午前10時すぎに神事がはじまり、その後、地元のみなさんによる参拝者の歓待がはじまった。午後4時すぎまで祭りは続いた。



お神酒、赤飯のほか多数の品がふるまわれた

参拝のお土産用としてお菓子が用意されていた。以前は、男根形のお菓子を準備していたというが、製造会社がなくなくなったため、現在は、通常の「お菓子」が並べられていた。

記憶の落し穂

その ⑬

絵と文／坂本福治



武原はんさん

今から思えば夢みたいなことだが、三十五歳の時、食事を一緒にしたことがある。あまり大きくないテーブルに、四人が座った。書生時代の主人だった大佛次郎先生、光風社書店の社長豊島潔氏、武原はんさん、そして私。

はじめ、私はこの高名な踊り師を全く知らなかった。地唄舞も。三人の方は、私の無知にさぞ驚かれたことだろう。武原さんは本来、無口なのか、気分をこわされたのか、一声も出されなかった。大佛先生はノドの癌で入院中だったので私はビフテキ二人分を頂いてしまった。

間もなく、武原さんは正月のテレビに必ず登場なさるほどの名手であることを知った。

資料もつとめて集めた。大佛宅にはわら屋根の家があり、元はナダマンという料亭の別荘だったそう。武原さんが若い頃働いておられたこともわかった。時代をへだてて、同じ場所を私もホウキを持って歩いたことになる。大佛先生の一周忌の時、顔を合わせたが、ご記憶になかったようだった。

【たかもと・ふくじ／画家、人吉市】

《取材後記》

強い雨の中、祭りの準備がすすめられた。お祭りを成功させたという地元の方々の熱意を感じた。神事開始前にもかかわらず、「寒いでしょう」とおっしゃって、お茶と赤飯をいただいた。

「おめでとうございませう」が挨拶の言葉であった。以前はバスを利用して遠方から集団で参拝していたという。球磨川右岸の国道219号線をバスが走るようになったのは昭和42年で、それまでは人吉街道（旧国道）をバスが通っていた。バスが街道を通らなくなつてから、しだいに参拝者も少なくなつたようだ。

水俣方面からの参拝者が多数いたことから、父娘の最初の姦淫の地は水俣であるという話を聞いた（高田素次「まんちんたん」は芦北町小口とする）。父は、武士公卿でなく、地元の庄屋であつたと説明する人もいた。「けがらわしい」といって神社の場所を移



おもてなしをされる地元の人



人吉の石工作成のご神体

そうすると必ず祟りを受け、大正8年の淋地区の大火はその例であるという話もうかがった。

昭和40年頃までは、子供のオネシヨを心配して参拝する人が多かったが、最近では、足・腰の痛みをやらわらばたくて参拝する人が増えているという。

《『球磨村村誌』》

同村誌上巻（昭和62年）1089頁以下は柴立姫神社を説明しているの、そのいくつかを、ここで紹介する。

①以前は、現在地より100メートルほど大坂間よりの道上にあつたが、たびたびの火難、水害によつて建て替へられた。現在の建物は昭和のはじめ、人吉の「村上」が材料等を提供し、淋地区の出家でできた。御神体は「愛甲明」が昭和40年の水害のあとに人吉市の石工に依頼し、作らせた。

②淋地区の柴立姫の話を伝え聞いて、夜尿症、性病等の人たちが平穩を祈つて参りにくるようになり、特に接客婦や接客業の人たちは商売繁盛にもなるとして盛んに参拝した。

③高田素次「まんちんたん」が紹介している大正時代の警官の話は、村誌編集者の先輩が笑話として語つてくれたものと同じである。高田は一勝地橋の宮園にあつた「池の夜」の女将（アヤさん）から警官の話を聞いたのであろう。

定吉が行く

— 13 —



© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭 鳥飼 博

署名活動

梅雨が上がると暑い日が続いた。「SL人吉」の送迎を行っている、翌年から運行を開始する観光特急列車「かわせみやませみ」の話題となった。八代市の市鳥は「カワセミ」である。人吉市の市鳥は「鶯」^{ウグイス}。野鳥に詳しい方によると、「ヤマセミ」も球磨川やその支流、特に人吉城址近辺では多く見られ、稀少な地域として知られているようだ。そこで、新しい観光列車も運行されるこの好機に、「ヤマセミ」を第2の市鳥に指定してもらおう活動をしたらどうかとの意見が上がった。そのためには多くの市民の賛同が必要であるという。しかし、よ

く考えてみると「かわせみやませみ」という列車の命名をするJR九州の調査力にも感心させられる。実現すれば、JR九州が「ヤマセミ」を、人吉市の第2の市鳥にしたとも言える。熊本駅から八代駅までは短時間で運行する特急列車。「カワセミ」を市鳥とする八代駅から「ヤマセミ」が多く棲息する人吉駅までは、観光列車である。凡人には出来ない発想だと思った。

「署名活動ば、始むつばい」。定吉が決断すると、動きは早い吉組である。というよりも、一番に動き始めるのが定吉だ。

温泉旅館等の女将でつくる「さくら会」から始まり、市役所・小中学校にまで協力をお願いして回る。会う人会う人に声をかける。定吉の

一番素晴らしい所は、この行動力と警察官以外には物怖じしない所にある。人吉駅に降り立った著名人に対しても、平気で声をかける。もちろん定吉は、その人が誰かは知らない。「おじさん、どけ行きなっとう?」。相手は大きく目を開いて「私のこと

を、ご存知ではありませんか?」「知らんです」。女性に対しても同じだ。この様なやり取りの末、定吉のファンとなった著名人は多い。

7月初めから始めた署名活動は、706筆の市民の賛同を得て8月中旬に田中哲人吉市議会議長に提出された。田中議長は、笑顔で定吉を迎えて下さった。

人吉市はその後、パブリックコメントを募集し、年が明けて「かわせみやませみ」が運行を開始する3月の1日付けで、「ヤマセミ」を市鳥に追加指定した。

運行を開始した「かわせみやませみ」を、特別な気持ちを持って迎える予定であったが、吉組主宰の定吉は出迎えには参加できずにベッドの上

居た。このことについては、いつかご紹介したいと思っている。

署名活動にご協力をいただいた全ての方々に、この場を借りて心からのお礼を申し上げます。

映画「よきいご祭り」

7月中旬に2度目の人吉入りをした映画のラインプロデューサー荒吉は、何処に居るのかも分からない



田中議長に署名を添えた陳情書を手渡す定吉



荒吉



メイン会場の中川原公園で踊る「よさこい銀翔会」

んの自宅となる古仏頂町の老人会の方々にお願いをした。我々メンバーの親もかき出された。

8月末に開催される「第1回人吉よさこい祭り」に向けた企画会議は、2月中旬から毎週木曜日の夜に行われており、1ヶ月前には決起大会も開催された。毎年継続して開催していくことで、大会委員長には松岡人吉市長、実行委員長に岩下商工会議所会頭にご就任いただいた。祭り当日は、中川原公園をメイン会場として、人吉駅前広場、青井阿蘇神社参道の3会場だよさこい踊りが披露される。協力団体である吉組としては、出来る限りの協力を惜しまずに行っていたのだが、映画の撮影期間と重なってしまうことが気になっていた。

【とりかい・ひろし／人吉市】



青井阿蘇神社参道での踊り

位に奔走していた。

一日でも連絡がないと定吉は、「あぎゃんひどか格好でうろうろして、警察に捕まっつとじやなかるか」と言っ



芥川プロデューサー



森ガキ監督

ては荒吉に電話をしていた。もしもそれが現実には起きたとしても、身元引受人として定吉が出向くのかと思うと、不審人物を不審人物が迎えに来た様に思われるのではないかと、不謹慎ながらもつい笑ってしまった。

定吉の映画に対する思い入れは熱く、荒吉は毎日の様に定吉から呼び出され報告を求められた。「そ

こなら知つとつバイ」と言っ、二人一緒に行動をすることも多くなつた。この頃までは主に撮影場所の選定と、所有者との借り上げ交渉等を行っていた。荒吉ひとりが担当するには、余りにもタイトなスケジュールである。しかし、愚痴ひとつこぼさない荒吉に対し、定吉の優しさが爆発した期間でもあった。

日を追うごとに映画関係者の数

も増えてきた。それぞれが目的を持って動いている。吉組は荒吉の要望に沿って、定吉の指示で動いていた。荒吉は映画のエキストラも集めなくてはならず、会議は市役所で行われた。市の職員の方々にも参加していただこうという目論みが見え隠れしたが、なかなか荒吉もしたたかである。いつもの不審人物と疑われそうな身なりで人吉市長や幹部に面会し協力を仰いだ結果、市企画課を中心に数十名の職員の皆様のご協力をいただいた。

吉組メンバーは0歳から80歳を超える者までと年齢層は厚く、人材も豊富である。若い看護師や入院患者はすぐに決まったが、おじいちゃんの葬式なので、多くの高齢者が必要となった。通夜は、おじいちゃ

例大祭

三月末から四月はじめにかけて、球磨川流域の各地で春の例大祭が催された。本誌はそのうちのひとつとして、球磨村神瀬地区・熊野座神社の例大祭を紹介する。



1

熊野座神社（球磨村神瀬地区）



2

熊野座神社例大祭

4月3日に開催された。神事は午前10時に始まった(写真①・写真②)。同社は縁結びの神様として有名である。氏子列席のもと神事はすすめられた。神事後、紅白の餅が子供たちにふるまわれた(写真③)。平成27年(2016年)8月25日に熊本県内を通過した台風15号で神社前の杉が倒れたが、枯れていないことから、そのままにされている。生あるものを大切にすべきだという趣旨による(写真④・写真⑤)。

同社の草創は不明である。『球磨郡神社誌』は、維新(1868年)前は、「岩戸権現」と称していたが、維新(明治元年)



3

に「熊野座神社」に名を改め、明治8年(1875年)に村社になったとする。

昭和30年代頃には多数の出店が並ぶなど例大祭は大変な賑わいであったという。近年は、氏子中心の祭り(祀り)になっている。それを寂しがる声が多い。他方、同社は鍾乳洞内にあることから観光客が多い(写真⑥、⑦)。

同社入口右手には、神照寺(球磨村神瀬)の13世哲庵和尚が大正13年9月に奉納にした不動明王が鎮座している。石工は人吉田町の宮原十郎(写真⑧)。



8



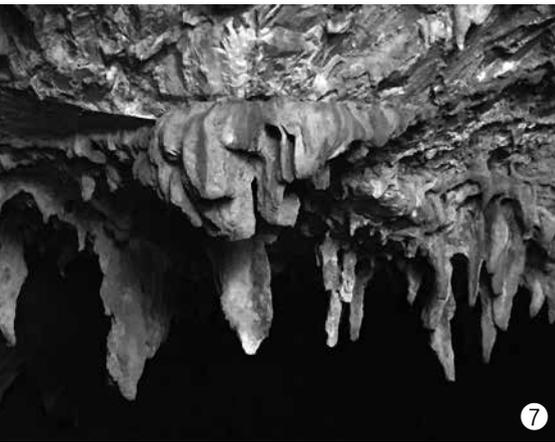
4



5



6



7



春がやってきましたね。
私は熊本地震復興支援の中を迎えた冬でした。
仮設住宅に住む方は、一軒家に住んでいた方が圧倒的に多く、狭く感

じる住宅の中で、それぞれのこれらの生き方を模索されています。
支援とは名ばかりで、私は自分の無力さを何度も確かめに行っているだけに過ぎません。
どんなに辛く寒い冬も、必ず終わる。誰にでも春が来る。
自然界は、無情なほどに平等です。不平等なのは、人間界だけなのかもしれない。そんな風に思いながらも季節が移り行くことがとても楽しみです。
さて、今回はその自然界の営みの力をお借りして、体の手当法を書いてみようと思います。

おなか痛いとときは、だれでもそこへ手がいけます。患部に手を当てるのは自然とやっていることで、自

分だけでなく体調がすぐれない時、背中をさすってもらおうと充分楽になります。

人間は生まれながらにして、生体磁気や自然治癒力をもっていて、そのエネルギーは掌から強く放射するとされています。「手当て」という言葉はここからきています。

更に食材を合わせる事で、食材の薬効で自然治癒を促進させるのが「民間療法」です。

たくさんの方の民間療法の中から、今回は「咳止め」をご紹介します。

レンコン、ひね生姜、自然塩（または生醤油）、本くず粉を用いて作ります。

まず、レンコンを皮のまますり下ろします。そのおろし汁(30〜40cc)にひね生姜のおろし汁を2、3滴お

とします。自然塩か生醤油で美味しいと思う味をつけ、本葛粉（小さじ1程度）でとろみをつけます。それに熱湯を150ccほど注ぎ、よくかき混ぜます。

レンコンの薬効は古くから知られていて、血圧調整において心臓の動きを強めてくれます。さらに、喉を潤し気管を広げる働きがあります。肺結核、喘息、咳止め、鼻血、下血、浮腫、腎臓病など、枚挙にいとみません。

私も自分の咳はもちろん、お店で咳がとまらなくなっているお客様、友人のためにも作ります。即効性があり、驚くほどに咳が止まります。

この「レンコン湯」を服用する際は、果物やお菓子などの甘い物は一切食べないことを注意してください。糖分が入ると効果がありません。

さらに、民間療法で用いる食材、例えば生姜はチューブタイプのも



【うらかわ・はるか/人吉市「さんぽカフェオーナー」】

自然界の力、自分の中の自然治癒力を信じて、医者いらずの無病息災、健康への道を堂々と歩いていきますよ。

の効果がありません。塩も食卓塩ではなく、自然塩を選びましょう。書き出すと止まらないので、今回はこれにて。

くまがわすじの考古地誌

(8)

球磨川筋の弥生時代⑧

熊本県立装飾古墳館長 木崎康弘

(NO.169)

甕棺の話、その移り変わり

球磨では、弥生時代中期のムラの跡が二ヶ所で見つかっている。多良木町北大久保遺跡の北大久保ムラと人吉市中通遺跡の中通弥生中期ムラだ。北大久保ムラは、前期末から中期初頭の亀ノ甲式土器の頃のもので、中通弥生中期ムラは、中期後半の黒髪式土器の頃のものだった。

ところで、この前期後半や中期という時代の九州では、甕棺墓がとても流行っていた。甕棺墓とは、文字通り、甕や壺を棺にしたお墓（写真①）。もともと縄文時代後期・晩期の日本列島では、深鉢形土器に子供の亡骸を納めて地中に埋める習俗が流行してい

た。埋葬と呼ばれるもので、球磨の考古地誌二二五で取り上げたあさぎり町沖松遺跡や、同じく二二一・二二二の人吉市中堂遺跡など、球磨でもちゃんと見つかっている。その埋葬の習俗が弥生時代にまで受け継がれたものが甕棺墓、と考えられている。このため、近年では、それらを土器棺と呼んで、時代を超えて理解しよう、と考える考古学者もいる。

ところで、球磨では、埋葬が普通にあることは、前記した通りであるが、甕棺墓となると、話が違う。見つけたことを聞いたことがないのだ。どうしてだろうか。これを考えることも、



写真① 甕棺の埋設状況（春日市奴国の丘歴史公園）

『くまがわすじの考古地誌』では不可欠なことなので、まずは甕棺の話から始めることにしよう。

甕棺の始まりである埋葬は、その大きさから乳幼児の墓と考えられている。その伝統は、弥生時代に入っても受け継がれ、小形棺として中期まで残っていた。一方、大人も入れるようにした大形棺は、

弥生時代の前期後半になってから作られるようになった。その研究の代表者が福岡の県立高校の教師で、後に九州産業大学教授となった森貞次郎（写真②）だ。

森は、その大形棺の新旧関係を次のような流れで整理した（文献）

「伯玄式↓金海式（一）↓城ノ越式↓波田式（二）↓須玖式（三）↓



写真② 森貞次郎

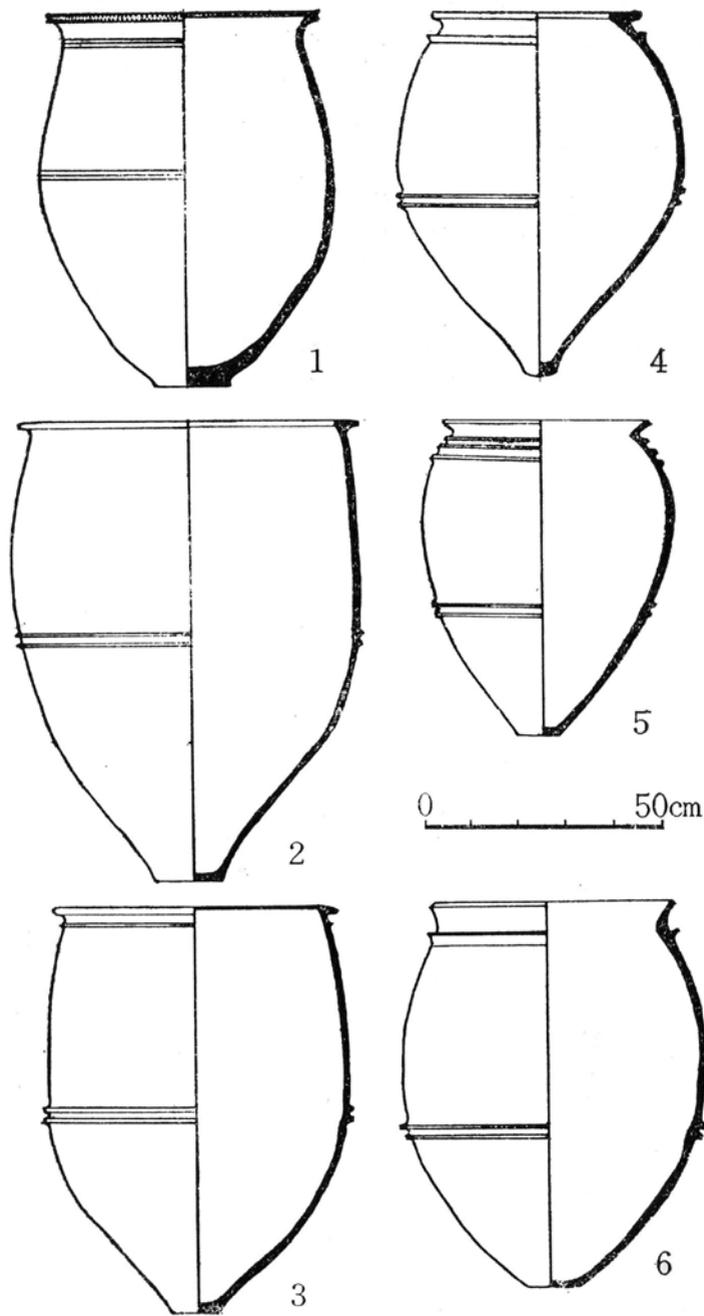


図 甕棺の移り変わり (文献より)

立岩式(四) ↓ 桜馬場式(五) ↓ 三津式(六) ↓ 日佐原式(図)

森が提唱したこの移り変わりは、今日、定説化し踏襲されているものだ。これを見ると、一番目に来るのが、伯玄式甕棺や金海式甕棺である。伯玄式とは、福岡県春日市伯玄町にある伯玄社遺跡で見つかった甕棺が標準資料である。前期後半とされ、九州で最初に造られた大形棺である。続く金海式は、球磨の考古地誌一五八でも取り上げたように、「韓国慶尚南道の金海貝塚の甕棺を基準とした」ものである。金海貝塚出土とはいつても、製作地はあくまでも北九州だ。それが海を越えて埋められたのである。前期末～中期初頭とされている。

中期は、さらに大型化して、隆盛期となる。城ノ越式は、本連載五でも紹介した、弥生中期初頭で、福岡県遠賀町城ノ越貝塚出土の土器が標式となっている。球磨でも、甕棺ではないが、他の日常土器が出土している。汲田式は、中期前半だ。佐賀県唐津市の宇木汲田遺跡で見つかった土器が標準とされた。須玖式は、中期中頃から後半だ。春日市岡本町の須玖遺跡で見つかった土器が基準となっている。森に言わせると「最も堅牢な焼成のよい土器」(文献)で、甕棺の中の甕棺、とでも言えるようなものである。T字形の口縁が特徴だ。日常土器は、球磨でも見つかった(本連載五)。立岩式は、中期後半だ。福岡県飯塚市の立岩遺跡の土器を基準にして、そう呼ばれている。

そして、後期の甕棺は、中期ほどの隆盛は見られず、低調なものとなっている。

その様式は、初頭の桜馬場式、中頃の三津式、末の日佐原式で、唐津市の桜馬場遺跡の土器、佐賀県神埼郡吉野ヶ里町の三津遺跡の土器、福岡市の日佐遺跡の土器が、それぞれの標式である。そして、この後期を以て、甕棺墓の風習は無くなっていた。

文献「弥生時代における細形銅剣の流入について―細形銅剣の編年的考察―」(『日本民族と南方文化』、一九六八年)。

森貞次郎・一九一〇(明治四三)年福岡県生まれ。國學院大學卒業後、一九七〇(昭和四五)年まで、嘉穂中学校(現・嘉穂高校)や福岡高校などで社会科を教えた。九州大学非常勤講師の他、一九七一(昭和四六)年から一九八一(昭和五六)年まで、九州産業大学教授。文学博士。

『忘れられた人類学者』を読む

東慶治郎

人生には認識を変させる力のある本に出会うことがあるというが、私にとって、まさしく『忘れられた人類学者』（田中一彦著／忘羊社）がその一冊であった。正確にいうと、この本で紹介されている『日本の村―須恵村』（以降『須恵村』と書く）『須恵村の女たち』（以降、『女たち』と書く）を読むことによって私の日本人論と農村観、そして我が故郷、人吉球磨地方を見る目が一変するのでは



忘れられた人類学者(ジャパノロジスト)
~エンブリー夫妻が見た日本の村
田中一彦・著
忘羊社(2017年2月17日)

ないかといった予感である。

筆者は1947年、福岡県瀬高町（現みやま市）生まれの元新聞記者で、GNH（国民総幸福量）政策を進めているブータンを旅していたころ、1935年（昭和10）に熊本県球磨郡須恵村に約1年間滞在して村を調査したエンブリー夫妻の『須恵村』と出会い、夫妻と同じように運命の糸に導かれるように、2011年から2014年までの3年間、須恵村に住み込み調査をする。そしてエンブリー夫妻が来村した約80年前の様子を求め、現在の須恵村で変わったもの、変わらないものを調査し、未来へのメッセージを醸し出している。

この本を理解するキーワードは「はじあい」であり「かちやあ」である。「はじあい」とは助け合い、分かちあいを意味する須恵村にしかない独特の言葉である。筆者は、「この言葉の意味は、ムラの人々の人間関係、自然との

関係が直に補いあい、共に生きるものとしてある、という思いだ」と解く。また、「インターネットで簡単に「つながる」たぐいの手軽な『絆』ではない」とも。そして「当時と現在の記憶録として『共同（はじあい）』の物語を紡いでみたい」という。

当時、日本での調査対象候補地域が22ヶ所もあり、最終的に須恵村に決定される姿は、ジョン・エンブリーとエラの経歴と出会いの紹介と共に導かれた二人と表現されているが、運命という言葉を強く感じる。二人の船上のロマンスはまるで銀幕のラブロマンスではないか。「素敵な所ね」「そうだね。とても面白そうだ。僕たちの調査にふさわしい村かもしれない」という若いアメリカ人夫妻を、最初はとまどいもあつたかもしれないが、徐々に受け入れて

ゆく須恵村の人々。「最良の友人」と紹介される愛甲慶寿家氏の存在が大きな力であったとはいえ、「はじあい」「かちやあ」精神が息づく土地柄であればこそ感じられる。「奔放な女たち」では、性のおおらかさと女性たちの逞しさが語られる。後述されているが、日本神話の天岩戸あまのいわと前のアメノウズメノ命の世界ではないか。武士世界の良妻賢母を、近代化の名のもとに「わく」をはめられた生き方とは相反する生き方である。

終章では、エンブリー夫妻が影響を与え、残したものが、いかに大きいものであったかを指摘する。冒頭で紹介される『須恵村』『女たち』への賛辞は圧巻である。人類学者の今西錦司、民俗学者の宮本常一、国立民族学博物館館長だった梅棹忠夫、哲学者の鶴見俊輔の各氏が、最

大限の評価をしているのである。

また『菊と刀』と共に日本人論の第一人者として大きな影響を与えたベネディクトへのエンブリー



『須恵村の女たち 暮しの民俗誌』
ロバート・J・スミス
エラ・ルーリー・ウイスウェル
御茶の水書房(1987年)



『日本の村 須恵村』
ジョン・F・エンブリー
日本経済評論社(1978年)

人吉球磨児童生徒文詩集「やまぎり」から

第34号 (2006年3月発行) 選・作文の会

両親へ

私 幸せだよ

皆に会えて 笑って 泣いて けんかできて

毎日 とっても 楽しいよ

大切に育ててくれて ありがとう

きついこと言ったり 困らせたり

いつも 迷惑ばっかりかけて ごめんね

安心できる場所は お父さん お母さんの

そばだよ

もらった命 大切にするけん!

これからも ずっとよろしくね

「産んでくれてありがとう」

五木中二年 濱岡 理沙

【評】 立志式を題材にした作品だ。立志式への意気込みから硬い表現になりがちな中で、毎日振り返り、両親への感謝を素直に表したところに、この作品のよさと温かさを感じとれる。

の批判的書評の部分を筆者は読んで欲しいという。それは「ベネディクト博士の総合的な分析に対する一つの批判は、日本は古い文化であり、アメリカは新しい文化だということとを無視していること……」で始まる。この部分に接したとき、目からウロコが落ちるというより、脳天を割られるような感動をおぼえた。

また、戦後の占領政策へも影響を与え、特に農地改革には多大な影響を及ぼしたという。そのような大きな影響を与えた震源が須恵村だと知ったとき、村の住人ではないものの、何か誇らしく思った。

最後に「エンブリー夫妻を誇りに思い、須恵にしかない『はじあい』の精神、夫婦が描いた『協同』を忘れないようにしようという思いは、須恵の人々に今も刻まれている。このことは、今と未来の須恵にとって重要なことかもしれない。当時の貴重な記憶の遺産は未来への贈り物である」と結ぶ。

改めて『須恵村』と『女たち』を読んで、その世界に触れてみたいと思う。

【ひがし・けいじろう／農業、人吉市】

「はじあい」と「かちやり・かたり」

松本佳久

山江村では「はじあい」という言葉は使っていない。しかし、あさぎり町須恵地区の友人たちは、この言葉をよく使う。それで、「はじあい」という言葉の存在は知っているけれども、その正確な意味を確認したことはない。山江村で使う「かちやり」のような意味だろうと思っているが、それが正しい理解かは分からない。

「かちやり」や「かたり」は相互扶助仲間を指す。たとえば、わが家の場合、近所の3戸と「かちやり」であった。田んぼの準備はそれぞれでやり、田植え・稲刈り・脱穀・糶摺りなど人手が必要な仕事はお互いに助け合っていた。昭和30年代の後半に耕運機が入り、「かちやり」はしだいに減っていった。

「かちやり」は手間返しの意味で、1人加勢してもらったら、1人手間返すという仕組みだった。これも同じくしだいになくなっていった。

経済的には貧しくとも、戦後復興の思いに燃えて朝から晩まで働く、ある意味で幸せな時代であった。

【まつもと・よしひさ／農業、山江村】



いわさき楊子

柳人があじわう漱石俳句

— 13 —

湧くからに流るゝからに春の水

(漱石31歳)

春の川故ある人を脊負ひけり

(漱石28歳)

湧いて流れるという事実だけの描写で春の水の豊かなさまが表現されている。見たままを生ずる俳句表現のお手本のような句だ。しかし、「から」のリフレインにレトリックがあり、春の喜びを増幅させている。

掲句の前書きに「水前寺」とあるところから熊本の地下水の豊かさを実感したのだろう。漱石は五高に着任早々、短艇部（ボート部）の部長をしていた。水前寺からつづく江津湖での練習にもたびたび訪れている。

『漱石全集』第十七巻（岩波書店）によると、原句は上五が「秋の川」となっていたものを正岡子規が「春の川」に添削したものとある。あらためて「秋の川」と「故ある人」はつきすぎ（意味が重なりすぎ）だと気がつく。ここらあたりの微妙な季語の外しが俳句ならではの詠みだるう。川柳人には苦手なところだ。柳人はねらったのは外さない。

ランドセル赤橙黄緑青藍紫

春キヤベツザクリ軽口な男だ
肉片を流しています秋の川

【いわさき楊子／川柳誌「裸木」編集人、熊本市】

おもてなし

球磨川ツクシイバラの会 おもてなし部長 尾方洋子



球磨郡の河川敷に咲くツクシイバラ

幼き頃より、球磨川中流に住み、現在も球磨川を身近に感じながら生活しています。

昔々の思い出もこの川とともにあります。高校生になり、初めてプールで水泳の授業を受けました。そうです。中学生まで、球磨川が泳ぎと遊びを教えてくださいました。河原の白色の石ころを川へ投げ入れ、皆で見つけっこ、飛び込み、流れに任せて対岸まで泳ぎ、また、折り返して斜めに泳ぎ着く。時間を忘れ、唇は紫色。石ころを口に当てて温める。入道雲を仰ぎ「この青空は、私のもの

だ！」と錯覚しそうでした。

忘れかけていた頃、球磨川の贈り物をもたらしたのです。十年ほど前、自宅そばの堤防へ、姉と「こさんタケノコかき」に行った時のこと。堤防に咲き誇る野ばらを発見。「なんと、いう花だろうか？もぞかよね！」あちこちと咲き誇っているではありませんか。二人して「もぞかね。もぞか。」の連発でした。

翌年の二月、自生地へ九時集合。濃霧で一メートル先、見えない冷たい日、ツクシイバラの勉強会に参加していました。「公園化しないこと、自然のままに残すこと」を強く訴えられました。ありのままを邪魔しない取り組みを目標にその後も勉強会に参加し、ツクシイバラの世界に入りこみ、仲間ができたと思います。

Christiane Ranieri

●
Photo jaunie
la memoire de grand-père dans sa fraîcheur

【Commented by Mitsunori Nagata】

Meme si la photo a jaunie, la memoire impressionnante revient a l'esprit. Ce haiku montre les replis du coeur humain.

クリスティアン

●
黄ばんだ写真
新鮮な祖父の記憶

【永田満徳評】

写真は古びて色褪せても、人はむしろ印象深い記憶ほど脳裏によみがえる。人の機微がよく捉えられた句である。

Sylvie Théraulaz

●
Aube nostalgique
deux gouttes glissent au bord de la gouttière

【Commented by Mitsunori NAGATA】

Les gouttes glissant au bord de la gouttière font penser au pays natal, nostalgique. Le souvenir du pays natal est toujours inspiré par des bâtiments.

シルビー

●
望郷
庇の縁に雫

【永田満徳評】

庇の縁に雫が垂れているのを目にして、故郷の我が家を思い出した句であろうか。古里への思いはちょっとした建物に触発されるものである。



Gerard Marechal

●
Fleur de magnolia
la vieille dame plongée dans sa lecture

【Commented by Mitsunori NAGATA】

Toriawase de la fleur de mongolia et la vieille dame qui lit, correspond a haiku japonais. Par ce toriawase, on imagine le calme et la distinction de cette dame.

ジェラルール

●
木蓮
本に没頭している老婦人

【永田満徳評】

木蓮と読書する老婦人との取り合わせは日本の俳句に匹敵する。その取り合わせによって、静謐で、品のいい老婦人の佇まいが表現されている。

【ながた・みつのり/俳人協会会員、熊本市】

※前回のマリージャンヌさんの「手の中に時間の地図燕来る」の原文は sur ses mains la cartographie du temps passee une hirondelle に訂正いたします。

このコーナーは、「二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れた Haiku」を提案している『俳句大学』facebook ページからの転載です。

葛切りをメインにしてみました。作業のみでなく自生地を人吉球磨の宝物として、コンサート開催、ウォーキング大会、ランニング大会と催しも広がってきています。
飲み水も無い、トイレも無い、無い無い尽くしのツクシイバラの自生地です。

ある五月の暑い日、木上駅から歩いてこられた中高年のご夫婦と出会いました。ツクシイバラの感激とともに返ってきた言葉は「ここは何にも無いところなんですわね」

私は、何も無いことをお詫びしながら、やっぱり何かせんばんという思いが沸き上がりました。会の仲間とおもてなしを、手探りながら開始しました。お茶・コーヒー・漬物・らっ

きょう・梅干し…など。我が家にあるものを持ち寄り、開花時期の土日のみ限定で、ささやかなおもてなしをしています。

出会いも多く、毎年訪れていたただく方もあり、ツクシイバラのご縁を感じております。

おもてなし広場にはテントもあります。そこでは「年老いた母に一度見せたかった」と言われる方、地域サロンで食事会、煮しめやおにぎりを持ってきた方、福祉施設から毎年来られる方もおられます。

県外からも多く、生の球磨弁を聞けたと感激されて帰られる方もいらつしやいます。

私たちだけではできないことも地域の協力もあり、おもてなしを続けておりますが、逆に来られたお

客様たちからおもてなしをこちらが受けているなと感じることもあります。

作業に関して、もう十年以上経ちますが、何が正解だったか分かりません。

ツクシイバラが喜んでいるのか、悲しんでいるのか、そっとしておいた方がいいのか…

振り返る時期が来たと思っています。今年もツクシイバラが発見されて百年になります。

球磨川の贈りもの「ツクシイバラ」をご覧になって、答えはあなたが探してください。

自生地でお待ちしております。「守るべきものがあるから、皆で守っている。」次の百年に残していきたい風景です。



上杉芳野の「あがつ段」⑪

なんじゃかんじゃといいながら

主人の仕事の関係で転勤族だった私たちが、主人の実家であるあさぎ町に帰って来て早や30年になる。昔の人は「長男が親を看るものだ」といった。その言葉が頭から離れず最後の転勤先を地元で希望した。その言葉が頭の中になかったら、土地の安い広々とした北海道の大自然の中で小さい家を建て、子育てしながら生活していたらどうだろう。

実家に帰って一番にビックリしたのは、義父が何と私に8万円の中古車を買ってくださったことだ。「エエッ私に車」とビックリしていると「田舎は何回も

バスも通らんで車持つたらんば動かれんぞ」といつてもらった。

「ありがとうお父さん」と涙した。子供もまだ小さかったのでよく遊んでもらった。父は荒尾の三池炭鉱が爆発する前年に辞めて帰郷し、旧上村役場にそ

の後16年勤めて退職した。

父は魚釣りが大好きで球磨川に釣りに行き、釣った魚をきれいに腹を出して竹串に魚を刺し一晩中、火鉢に炭をおこして乾燥させ

た。それから魚をサラララップで包み10本ずつ束にして市場に持って行っていた。

持っていった魚の売り上げは何百円となりタバコ錢以上の売り上げる時もあった。そのことを人に話したら、



義父の米寿の祝いの席で

「そんなら上杉水産にしたら」といわれて、父はすぐさま、軽トラックに「上杉水産」とペンキ屋さんで書いてもらって来たのだった。

毎日魚を市場へもって行く頼もしい父の姿があった。そんな父が年と共に我がままになり、シチューを作った時は「こらー旨かーおら

こぎゃんが好き」と言ってくれていたので、「芳野、おら戦争中にジャガイモは分食うたで、こぎゃんとは食わせるな」と怒り出すのだった。

こんな事もあった。私と看護師の娘が父の血圧を測つても、「わいどんがた、わからん」と父が自分で救

急車を呼んだ。主人が「あのな、たいした事がなかとに救急車を呼んで今、最も体の悪い人がいた時、救急車が来なくて間に合わず死んやったら、どぎゃんすんな」と怒った事もあった。そうかと思うと昔話をしながら泣き出してみたりもする。

「あんねエー」と言いながら泣き崩れた。写真を撮る時は、祝いの席に自分の入れ歯を入れてくるのを忘れていながいうと、クックックと入れ歯なしで笑うのだった。もうわからん、もうわからんといながら病院行きが毎日の仕事の父。



入れ歯を忘れて来ていて「笑いなんなよ」と言うとクックックと笑いなる。みんなも大笑いです。

先日、父の88歳の米寿の祝いをした。福岡にいる孫達が贈ってくれた黄色の帽子とチャンチャンコを身につけ黄色の座布団に座り「ありがとうね。こいからも面倒みてくれ

なんじゃかんじゃいいながら、昔の苦労時代を乗り越えて今を築きあげた父に感謝以上の何も無い私たちがある。
【うえずぎ・よしの／下腹でる子、あさぎ町上】

のようである」と述べているが、古事記には、豊玉姫（トヨタマヒメ）は海亀に乗ってやってきて、産むときは「妾、方に産むときに、請う、臨ること勿れ」と言ったものの、彦火火出見尊が覗き見ると、八尋もある鰐であつたという話もある。ともかくも産島のもう一つの名前、亀島も、この豊玉姫の話に由来しているのかもしれない。また、豊玉姫の話にあるように、この島には鵜が大変多かったため、「鵜島」が「生島」となり、「産島」に変化したという説もある。

産島貝塚

昭和37年に貝塚が発見され、ハマグリ・アワビ・シジミ等の貝に混じって、縄文時代早期の押型文土器や前期の曾畑式土器、晩期の黒川式土器

弥生時代の黒髪式土器 古代の須恵器・中世の瓦室土器など各時代の土器が出土しているという。

また島内の北側では、明治時代に3基の箱式石棺や人骨・鉄剣などが発見されているが、現在はそのまま埋め戻されている。平成15年に2号石棺の調査が行われ、石棺の内部から、人骨2体・鉄剣・鉄鏃などが出土し、石棺の内部は、八代の他の石棺にも多くみられる朱が塗られた、八代地方の古墳時代の特徴的なもののようにある。

この狭い島に、これ程多くの土器や石棺が発見されたことに驚くかもしれないが、これらの時代の海面はずっと低く、島の面積は現在より広



八代内港から見た白島



北東側から見た白島

かったようで、島の南東800mほどの水田からも縄文時代の土器が出土している。

白島

八代の内港と道路を挟んだ北側にこの島はある。現在は、郡築一番町と

なっていることから分かるように、明治37年、郡築新地築造の際に堤防の一部として取り込まれた。
名前の由来は、全島が石灰岩であったことからだが、上質な石灰岩であったため、昔から採石が盛んであったようである。八代城の石垣にもこの

石が用いられたことは有名である。八代城の築城には、地震で倒壊した麦島城の石垣を再利用した他に、白島や産島、また坂本町の油谷から採石された石灰岩が多く使われている。白島は、当時はまだ陸続きではなく、海上輸送されたようだ。

採石で、すっかり島の高さは低くなり、現在、周りが家で囲まれていることもあつて、島の全景は家々の隙間から、ごつごつした山様の一部分が見える程度である。頂上の高さは、標高19mで、九州地方山岳標高順位は、堂々の二位である。山の中腹にある弁財天宮の前を通り抜けると、かつての石切場の跡を見ることができると。

近所に住む人に聞いても、かつての島の暮らしを知る人はもういないと言われ、図書館等で調べても、なかなかこの白島に関する記録や資料は見つからなかった。弁財天宮の階段の入り口にある説明中には、良質の石灰岩が八代城の石材として切り出されたことその他に、次のような説明があった。

「元禄年間にこの石材で作った手水鉢が江戸へ送られた記録がある。島に



弁財天宮と八代内港



石灰岩切り出し跡

は東端と西端に湧水池があり、西端を地獄尻と呼んだ。妙見町水無川の君が淵が底なし淵と伝えられ、その底流水がここに湧いて出ると言われていた。実は宮地に広がる伏流水が清水として湧き、泉となっていたもので

ある。貴重な飲料水や灌漑用水となっていた。」

弁財天宮からは南に八代内港とニュー加々島を見下ろすことができるが、これらができる前までは、名勝の水として、ここを訪れる人も多かった

球磨川の伏流水が、海で隔てられた島々にも泉になって湧いていただろう昔の不知火海に思いを馳せながら、白島を後にした。

【つる・しょうこ／八代市】

種子法が廃止されました

磯田 毅

公共によって守られていた種子

政府は農業の競争力強化として「主要農作物種子法」を廃止しました。この種子法は、稲・麦・大豆の品種開発や普及を都道府県に義務付け、優良で安価な種子を供給することを目的に1952年に法制化されたものです。各地域に適した種子を育成し農家に奨励することで食糧生産の安定に繋ごうとしたものです。各地に残っている原種や原原種

は、優秀な品種を開発する上でとても貴重な資源になります。これらの原種が持つ遺伝子は、様々な特徴を持つ「奨励品種」を育成する上でとても貴重な資源になります。

例えば、全国の食味ランキングで特Aに選ばれた熊本県産米「森のくまさん」や「くまさんの力」は、地元の農業研究センターが開発したものです。美味しいお米の品種は、「種子法」がしっかりと機能していたからに他なりません。今なぜ、種子法が廃止されるのか極めて大きな疑問を感じます。

安倍政権は「強い」ということを常に重要視しているように、多くの政策にその形容詞が付いています。例えばアベノミクスによる「強い経済」や災害に強い「国土強靱化」、

あるいは「安全保障の強化」など、あらゆる領域で「強さ」を求めています。農業の分野でも「強い農業」の実現には、

改革が必要として農協に迫っています。しかし「強さ」を求めるこのような流れに対し、国際社会は真逆の方向を示しています。国連は2年前前に「国際協同組合年」として協同の理念を世界に発信しました。「強さ」だけに頼った「民営化」は、「国家の株式会社化」であり人類の公共財産を商人に売り渡すようなものです。

しかし種子法は廃止されました。これからは自治体の持つ施設や遺伝情報が民間に開放されます。公共体による種子の開発や育成は、民間企業にとつて変わります。つまり利益を求めなかつた育種から、利益を求める企業の育種に代わって行くことになるのです。そうすると公共によって低く抑えられてきた種子の価格は恐らく上昇するでしょう。

あるいは、遺伝子組み換えが認められ「強い」品種が独占してしまふことになるかもしれません。世界では米・麦については公共の品種が8割ですが、大豆は逆に8割が遺伝子組み換え品種なのです。自家採取できる公共の種子から、毎年お金を出して買う交雑種(F1)や遺伝子組み換え種子

が広がってきているのです。

企業に支配される「命」

利益重視の流れは生産性の高い品種(収量多い)に集中しやすくなります。しかし、単一の品種が席卷するような事態が起これば、私たちの「食」が危ういことになります。

実はその分かりやすい例が韓国で起きたのです。1970年代に韓国は「統一」という名前のコメの品種に文字通り統一したことがありました。ところがたった二つの病気(いもち病)によって壊滅的な被害を受け国内のコメが足りなくなったことがありました。この時には米国から緊急輸入したのですが、輸入時の条件でその後10年間も米国产のコメを輸入しなければならなくなったのです。

このように公共の種子を利益目的の民間企業に開放することは、公共の財産である遺伝子情報が企業によって「知的財産」として独占されることとなります。つまり、種子法の廃止は「私たちの命」が企業に支配されることに繋がるのです。

【いそだ・こわし／農業、八代市】



① 旅館金波楼 (右が創業本館、左が日本伊勢屋)

建築みてある記

旅館「金波楼」をあるく

森山 学

先日、楽天トラベルが国宝、文化財の宿のランキングを発表した。熊本県勢では六位に人吉旅館、七位に旅館金波楼がランクイン。今回はその旅館金波楼(国登録文化財、写真①)を訪ねたい。日奈久温泉駅から徒歩十二分である。

金波楼が建つ日奈久温泉は、応永一六年(一四〇九)に泉源が発見され、藩政期には藩営温泉になり、交易の津口に指定された日奈久港と海岸沿いの薩摩街道による交通の要衝として栄えた。その中心は現在の「ばんべ

半月もすれば、茶摘みがはじまる。立春(今年は2月4日)から計算して88日目を八十八夜というが、八十八夜には決まって茶の葉が伸びる。去年は5月1日が八十八夜であった。今年は5月2日である。

八十八夜には茶葉を摘み、釜で煎って天日に干し、飲用の

茶摘み

久馬 俊

「茶葉」にする。以前は、山村のどの家庭でも自家用に製茶していた。高齢化に

ともない、製茶する家は減った。鹿の急増もその原因になっている。鹿は茶の葉を好む。それで茶の樹はダメになり、おまけに、ダニなどの寄生虫を茶の樹につけて村人を困らせる。

そういうわけで、自然に恵まれているにもかかわらず「お茶」をお金で

手にいれる家が一気に増えた。その原因は上記のとおりだが、製茶がひどく面倒だという事情もある。茶葉を一葉ごとに摘み、それを煎り・揉み・干すという簡単な作業にすぎないのだが、簡単な作業は長くなればなるほど、作業がつかなくなる。その作業をしたくな

くなるのだ。

茶葉を天ぷらにしたら美味しいという人がいる。早朝から夕方まで休むことなく摘まなければ一年分の製茶はできないのであって、天ぷら用に茶葉を用意する余裕はない。遠くにいる親戚のためにも茶を摘まなければなら

らないのだ。

地域によつてちがうだろうが、わが家のお茶は「番茶」で、商品価値は低い。それでも今年も来年も茶を摘むであろう。ご先祖さまが続けてきたことはそう簡単にはやめられないのだ。

【きゅうま・すぐる／八代市】



い湯」。ここに本湯・茶屋、番所、高札場が建つ広場があった。

繁栄の結果、埋立てと干拓を繰り返し平野部が広がり、その平野部を薩摩街道に対する横道が、山手から港へと延伸する。これらは、船で訪れる湯治客を本湯などの共同湯へ、さらに山手の弁天社(現・温泉神社)や寺院へと導く。

明治以降は、内湯を備え、料理を提供する、いわゆる「旅館」が建ち並ぶようになる。旅館からの脱却である。

さて温泉街を歩いて金波楼をめざせば、土蔵造の町家や蔵、木造旅館群が目に入る。土蔵造は、天明四年(一七八四)以来、五度の大火に見舞われたことを語っている。木造旅館群は、明治初期の簡素なものから、

非日常を提供する明治後期以後の豪華なものまで、近代のわずかな期間の急速な変化を語っている。

特に木造三階建てに着目すれば、その数は八軒十棟に及ぶ。木造三階建てが建設可能だった時期は、慶応三年（一八六七）の木造三階建て住居の禁止令廃止から、昭和三五年（一九六〇）の建築基準法改正までの百年弱である。ちなみに戦時下には「木造建築統制規制」（昭和十四年、一九三九）のため実質、建設が困難であった。

金波楼はこうした日奈久の町並みであって、ひとときわ目を引く存在である。

建設当時の九州日日新聞によると、明治四二年（一九〇九）七月にほぼ竣工し、翌月創業予定とある。口承

によればその翌年が創業である。創業者は松本岩三郎、当地の干拓を有志らと自費で行った人物である。そもそも松本家は、寸志侍、庄屋、町長等を務めてきた家系である。金波楼裏には、今はないが創業当時の泉源、文久三年（一八六三）発見の「松本の湯」があつて、幕末には内湯を備えた藩主宿泊所にもなっていた。

金波楼が建つ地は、明治三一年（一八九八）の温泉改良新地埋立てによる。当初は八代海を、沖合の天草やうたせ舟、夕日とともに眺めることができたであろう。「八代海の金波を望む三階建ての楼閣」が旅館名の由来である。現在も、九州西回り自動車道の高架が視界を遮るものの、十分に金波を望むことができる。

この創業本館の東に、よく見ると趣

の異なるL字型平面の棟がある。こちらは旅館・本伊勢屋の建物を、大正三年（一九一四）に買収し曳家したものである。「日奈久の歴史」（中原文敬）には、木造四階建ての本伊勢屋を西南戦争の砲弾が貫通したとある。現在の建物は木造三階建てで、西南戦争当時の建物と考えるのは難しいかもしれない。

これら両棟の凹凸がつくる風景を見上げれば、確かに感嘆する。各階に庇と木製建具のガラス窓がつき、窓の内側には高欄が回る。ガラス窓が取り付けられたのは昭和初期で、本来は雨戸を開け放せば海風が室内を吹き抜けたであろう。

その足元に、昭和初期建設の正門と塀がつく。正門は高さ四メートルの棟門、塀は大和張りの板塀である。

ただし西の創業本館前に塀は立たず、「脇門」と呼ばれるガラス戸と、出格子、一階庇の大きな持送り群が表情をつくる（写真②）。

正門をくぐると、前庭から、大階

段のある玄関ホール、その奥の庭園へと、やはり吹き放たれている（写真③）。桜材の床板と高欄、蛇腹の線形に擬宝珠を乗せた和洋折衷の階段親柱。丁寧に大切に磨き抜かれたそれらに、主人の心意気を感じる。

庭園には石を井桁に組んだ井戸のようなものがある（写真④）。これは

潮位を覗き見る開口だったもので、干潮には門扉を開け温泉を排水し、満潮には門扉を閉鎖し、海水が湯船に逆流するのを防いだようである。今でも排水溝は現役である。潮の干満に寄り添う暮らしが日奈久らしい。

金波楼にはもうひとつ、大広間棟という棟がある。団体客の宴会場が必要とされたであろう、昭和十三年（一九三八）の増築である。その前年、

同じ日奈久の柳屋旅館にも大広間を備えた東棟が増築されている。



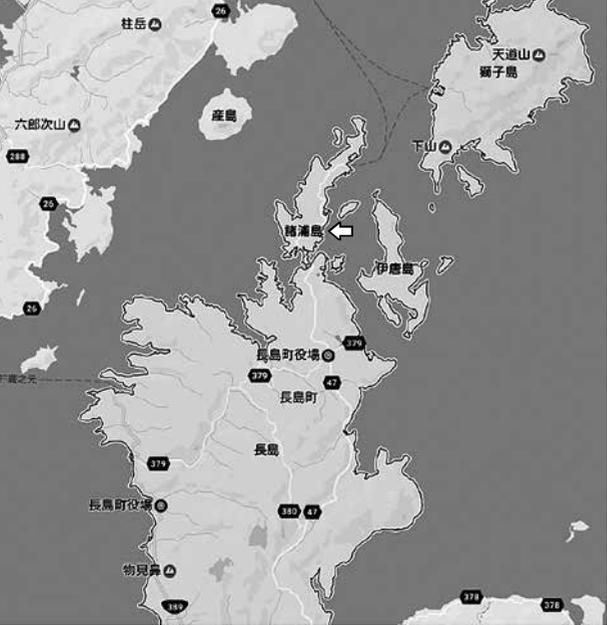
② 創業本館の脇門、出格子、持送り



③ 正門から玄関を見る



④ 潮見を覗く



鹿児島県出水郡長島町で釣れた場所介

鹿兒島県出水郡長島町で釣れた場所介
 タイヤで踏んづけないようにハンドルでかわした。見ただけでも釣れない動

「何かいた！」と私は車の中
 「人吉の人達は潮がドンドン流れる磯は嫌い」だと船長はいう。昔か

桜の開花が遅れている山道を夜中に走った。いつもの季節なら桜にライトが当たると雪が積もっている

ような夜の風景なのに、今夜はただの暗闇を走り続ける。伊佐（大口）から出水への山越えだ。「ボクはタヌキを見れば魚が釣れません」と助手席に座る地下さんがポツリ。そういえば釣りの先輩たちもウサギ・シカ・イノシシと、釣行の途中で苦手な動物を見ると釣れないといっていた。

新・日曜釣り師心得② 君の名は。

宮原赤竿

物を踏んづけでもしたら大変なことになるところだった。

出水の街を通らず3号線に平行して走る国道を南下した。コンビニで弁当や飲み水を買ひ込み、鹿児島県の最北端である長島の入り口の釣具店で釣りえさを買い入れ、さあ、瀬渡し船の出港する白浜港へ着いた。人吉を早朝4時、ここには6時過ぎに着いて道具を下ろす。日曜日の第1便だというのに私たちを含め3人しかいない。

さて出港である。船は西へ向かいもう1人の釣り人を「まで島」という超ベテランの乗る小島に降ろし、私たちは内側の海域へ向かう。私たちが内側の海域へ向かう。

そう、素人向きの磯だ。



⑤ 大広間の座敷飾り



⑥ 大広間の梅の欄間



⑦ 地震前の煉瓦造煙突

この八〇畳の大広間の座敷飾りは幅四間に、床の間、違い棚、琵琶床で構成した豪快なもので、日本のパロク様式と言ってもいい（写真⑤）。野趣あふれる銘木を大胆にあしらひ、鼠子の床柱は畳にまで根をはり、陶器製の床框には八代海の金波を描き、

各々の天井を覗き込めば、砂ずり天井と網代組の床の間、矢筈張りの違い棚、寄木天井の琵琶床と、数寄の精神を随所に発揮する。座敷飾りだけではない。網代組の舟底天井、枝付きの柱、実際の松・竹・梅の枝をあしらった欄間（写真⑥）

と目を奪われるばかりである。ところでこの床框は旅館で焼いたものらしい。食器類もかつては自前でつくったようだ。その証拠が高さ十五メートルの煉瓦造煙突であり（写真⑦）、やはり日奈久には欠かせない風景であったが、熊本地震による損壊のため上部を余儀なく解体してしまった。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

らここへくる人吉勢がそんな磯選びをしていただろう。

船はくると半島を回り込んで、夕風の島の奥へ。獅子島へ渡るフェリー乗り場の前を通って奥へ奥へ。先月、刀竿^{とうかん}さんとここに来てポーズをくらった場所に私は下りた。

本日の相棒、地下さんは同じく刀竿さんがポーズだった磯へとそれぞれ

れポーズ覚悟の今日の釣りである。

カンカン照り、無風、潮流れず、海底が丸見えの磯。

天気予報は、「曇りのち雨」だったのだ。どこか？ 曇り？

カンカン、ぴかぴか照りなので防寒服は脱ぎ捨てて片手にはポカリスエットをガブ飲み。仕掛けを投げ入れて数10m先からリールで仕掛



潮が動かないときは、食事時となる



大チヌ狙いの仕掛け。竿とリールは頂き物

けを巻き上げるのだがいつもと違った。同行している地下さんから竿もリールも頂いたのだった。柔らかい軟竿でリールは一巻きで1mも巻き取れる優れもの。

それになじまぬへタクソの私。

2時間ほど、投げて回収して投げて回収してを繰り返す。弁当を食べ、海草や子魚を釣り上げながら、手になじんでいった。

お昼を過ぎて西風がドドドド〜！と海面も私の体も押し流す程に吹いた。

「今だ！」

私は、宮原赤竿^{せつかん}というドヘタの釣り師である。我が釣りクラブ熊本飛翔会には私が釣りの名前を名付けた仲間達が大量いる。刀竿・爛竿・凜竿・烏竿・快竿・寛竿・旨竿・暁竿・昂竿・礁竿だ。私から名前をもらいたくないと「臥竿」と自分で名付けて今も、竿が臥（立たない、ふせた）竿さんも元気に焼酎を飲んで例会を開催して、もう20年か。

釣りが上手いのは昔から刀竿さんだけで他は刀竿さんが釣ってくる「無塩」を待っている釣りクラブ員となった。

しかしである。昔からの釣りの勘だけは、どの会員も明解に残しているのだ。

今日もそうである。

長島の奥の磯で午前中はカンカン照りの海上が、強風となった西風で、「二発出る」のがわかるのだ。

「来る！」



つり上げたチヌ

ざわつく海面を赤いウキが漂い、ブーン！と消えた。「来た！」。頂いた柔らかい竿が魚の突進を止めた。リールを巻き込むと、素早く道糸が巻き上がった。頂き物の釣り道具は見事だ。大きな重みが竿に伝わりグリーンと大きく円を描いている。数分の魚とのやりとりの最後はタモ入れ。そつと魚を掬った。

寒チヌ、45センチだった。

船が迎えに来て磯から港へ帰った。魚を船長さんや地下さんに披露して、さあ、帰ろう。

帰りの車の中で地下さんがいう。

「船長さんがあんたは何竿な？」と聞いたぞうだ。

君の名は何にしようか。

【みやはら・せつかん／人吉市】

パパ・ママからの脱皮 小学校の入学は最高の機会

前田一洋



四月八日はおシヤカ様の誕生日で花祭り、ババしゃんに連れられて甘茶汲みに出掛けたものでした。するとそのお寺には地獄の絵が飾られていて、「ウソ言えばこぎやしてオニがベロばすん抜くとばい」「食いもんよば粗末イすればこのガキ道に行かんばんとじやっで」と、教育的指導も行なわれていました。

そして次の日は小学校の入学式。満開の桜上級生や先生方の歓迎を受け、今日から二年生、幼児から少年少女へと成長するのです。

この入学式は人生の通過儀礼でもあり、ぜひ有効活用したいもの。その二つが幼児語からの脱皮です。「カジュちゃんクチュはふんだな、ふみいらんばママがふませてくるつばい」などと言う場合のカジュちゃん、クチュなどがそうです。さらにママに至っては、幼児語以前の問題で、ぜひ改めたいものです。

○入学記念に

カジュやクチュなどは、まだ口の筋肉が未発達なうちには仕方ありません。

しかしカズやクツに矯正してやるチャンスを見逃して、いつまでも大人が迎合していますと、モノ喰いのタネになり、イジめられることだって。

ましてパパとかママなどは以ての外、どこの国に自分の親を外国語で呼ばせているところがありませんか。おそらく明治の初めごろ、外国かぶれをした一部の愚かな人種、その遺風なのです。もしどうしても改められなかつたなら、自分の顔を鏡に写してごらん下さい。こつぱすかしくなつて、助けてくれ！。

「おいぎやの子に、パパちゆうて言わしゆうがママて言わしゆうが、ガワンもんがスツペンコツペン言いぐりやいつか」とのご批判は覚悟のうえ、なぜ日本語に改めてやるのがいいのか、次のような理由があるからです。

子供が成長して中学生の頃になりま

すと、第二次反抗期という難しい時期を迎えます。

その特徴の一つとして、親とあんまり口を利こうとしなくなります。そうした場合、親への呼び掛け語が、まるで幼児語同然な「パパ・ママ」しか使えないとなれば、なおさらその断絶状態は大きくなり、ますます意志の疎通を欠き反抗期が長引いてしまうのです。

こうした「悲劇」を無くするうえからも、小学校の入学記念としてトウさんカアさん、おトウちゃんおカアちゃんなどに矯正してやると、幼児から少年少女に成長したという自覚も湧いてくるじゃありませんか。トトしゃんカカしゃんやおトツちゃんおつカしゃんでは、いささかクラシク過ぎるでしょうが。

○工夫された幼児語

もちろん私は幼児語を否定しているわけではありませんよ。泣くことしか意志の伝達法を知らない赤ん坊に、少しでも多くの言葉を教えてやろうと、発音のやり易い用語を親が工夫し、赤ん坊に教えてやるのが幼児語です。それはまるで言葉の双葉とも言べき言語。しかも、そうした言葉の中には、まことに優雅なものもあつて、微笑ましくなります。

「どうら、ババしゃんとタンタンに入ろうかな、いちばんにベンベンよばにいで。なんておイシヨは自分で脱ぐてな、オシヨモンおしょもん。ほんとーんボンこなつたよなア」

「えーモンモの欲しかてな、シシしかぶつたつちやつかえんで飲まない飲みない。そいどんボンポンの冷ゆれば病院

でジツカンせんばんで、金太郎さんでもしとこうかな。そん前にあせぶどもがでけちやならん、打ち粉もしとかんばんたい。どら首よばオンゴーン」

それでは、この会話を使かつてクイズを。

タンタン①階段②お風呂③おふとん
ベンベン①トイレ②ペーパー②おべんとう③衣服

オシヨモン①愚か者②お利口さん③泣き虫
ボンこ①大きく②丸く③小さく
モンモ (フブとも言う) ①ご飯②お水③お酒

シシ①おしつこ②うんこ③おやつ
オンゴーン①お寺の鐘の音②ぐるぐる回す③上の方を向いて

【まえだ・かずひろ／人吉市】

支えて 支えられて 有難う

—みちのく南相馬紀行— ②

人吉アマチュア無線クラブ会長 那須智治

○地元のアマチュア無線家と対面

南相馬市長室に田中前市長の依頼を受けて野田祥三さん（JA7UBZ）、井川豊さん（J7NPS）を呼んでいただいていた。初対面だったが、電話では数回お声を聞いたことがあったので昔からお付き合いがあるように思えた。井川さんと明日の災害現場の案内スケジュールを決めて市長室を後にした。野田さんはお寺

さんで土、日曜は多忙で明日は会えないとのこと。しかし、東日本震災南相馬市の被害と復興状況の資料をいただいた。

帰宅後、南相馬市の現状を知る学習資料として読ませていただいた。避難された住民が少数であるが元の地に帰って来ていることを知り少々安堵した。

さらに無線通信の楽しみと東北エリアのアマチュア無線家名簿の資料を頂き、次にお空の上で無線の声でお会



左から田中氏、筆者、井川氏、野田氏

いすることを約束して辞した。

相馬・南相馬市地方にはアマチュア無線クラブはないとのことだった。

後日、井川さんから送られてきたガリ版刷りの機関紙「無電塔」の貴重な資料によると、昭和34年相馬無線

クラブが発足。会員31名（開局者4名）であった。原町支部、鹿島支部

学生支部、相馬支部で結成されていたが、現在では原町支部、鹿島支部、学生支部は消滅。相馬支部は現在相馬倶楽部となり一部の人により運用されているという。山火事の際、相馬無線クラブが活躍したと報道されていた。その夜、持参した携帯無線機でCQ（呼び出し）を発信したが応答はなかった。

○南相馬社会福祉協議会へ

南相馬市役所から南相馬社会福祉協議会へ向かう。人吉から田中前市長が訪ねるというので職員の方が午後5時を過ぎたが待ち侘びておられた。常務理事の廣瀬要人氏と暫し歓談。5年前、社会福祉協議会を通し

て人吉からのボランティアの受け入れと振り分けが行われた。

○宿泊所に加藤さん宅へ向かう

民宿で2泊3日お世話になる元消



鹿島の方々が駆けつけてくださった歓迎会

防署勤務だった加藤さん宅に旅装を解く。とても和風ながらモダンで、スギ材でまとめられ地震対策もしており、さらに和風の庭作りには心が和んだ。新しい家屋だった。

○歓迎会

午後7時、会場を料理屋「亀八」に移し、私たちの歓迎会が開かれた。田中前市長の再来を聞いて約15名の元仮設に住んでおられた鹿島の方々が駆けつけてくださった。五賀和雄さんの歓迎の挨拶を頂き歓迎会が始まった。私はこの時点ではまだ緊張で固まっていたようだ。同行した宮川さんが後日語ってくれた。蛸にエビ、マグロの刺身の盛り大盛りに相馬野馬追いの酒が空腹を満たしてくれた。

皆さんのカラオケの競演が始まっ

た。さすが東北だ、唄がうまい、民謡がいい。1週間後は相馬野馬追が始まる。野馬追の民謡が次々とうたわれる。遠い東北に来た実感がわいてきた。宮川さんの正調「五木の子守唄」が南相馬の夜に響き消えていった。話がいっまでも続いた。五賀さんは私よりもご年配に見えたが、学年が同じだった。同年のご婦人は私が若く見えるのは髪の毛の量で「髪の毛のせいだべ」と笑いを誘った。

○田中信孝氏の肝っ玉と優しさ

相馬野馬追は千年の歴史があり、鎌倉幕府が開かれる前から相馬氏の遠祖の平将門が野生馬を放し敵兵に見立てて軍事訓練をしたことに始まるという。福島県相馬市中村地区を初めとする同県浜通り北部(旧相馬

氏領。藩政下中村藩)で行われる相馬中村神社、相馬太田神社、相馬小高神社の3つの妙見社の祭礼である。野馬追に約500の騎馬衆が集まってくるという。1週間後の開催なので残ればその迫力を体験できるのだが、



堂々たる騎馬衆の行進

(http://blog.livedoor.jp/sadosado_4hi/ より)

患者が待っているのでビデオで我慢することにした。
この野馬追のために遠くから地元縁者が帰って来て町は人々であふれるそうだ。何代にもわたり家長が勇壮な鎧兜を着け、家紋の旗を背中に飾り出陣して行く姿は家の誉れであり誇りでもある。東北大震災後相馬地方は放射能に汚染されたために相馬野馬追は中止されたが、住民の要望で2年後に罹災した人々の「復興のシンボル」として復活した。

ところが津波で家屋が流失した人々は歴代着用してきた家宝の鎧兜、太刀が流失し、野馬追に参加が出来なくなった人が多かった。第5次ボランティアで参加した田中前市長はそのことを聞き、個人的にその人に自分の鎧兜を贈った。人吉の国宝青井阿

蘇神社のくんち祭り御神幸行列で着用する田中氏の自前の鎧兜だった。其の鎧兜を受け取った五賀さんからその話を酒宴で聞いて、田中氏の内面の優しさど肝っ玉に触れた感じがした。人吉に居てその美談は聞いたことがなかったが、絆が益々強くなったのは当然なことだと思っただ。

○加藤家に泊まる

午後9時宴会が終了。加藤家に帰り風呂を浴びて休む。2階の2部屋に私と宮川さん、田中さんと永田さんに分かれて休む。杉材の香りが森林浴アロマセラピーとなり、ぐっすり休んだ。

○早朝ウォーキング

早く休んだので午前4時に目が覚

める。東北は早く夜が明ける。宮川さんを誘って近郊を歩く。直ぐ傍を流れる真野川を上流に200m位歩き陸前浜街道のかしま橋を渡る。橋の両欄干の手すりには野馬追の家紋を入れたのぼり旗を立ててあり野馬追の近いことを告げている。橋を渡ると真野川の堤防沿いに下流へ歩く。

宮川さんは元国鉄職員の機関士で、亡くなられたお母さんは私の長年の患者さんだったと今回の旅行で知った。さらに永田さんのお母さんも患者さんだったことを知った。宮川さんは有名な植物学者だ。昆虫にも造詣が深い。私は野草や道端の草花などの名前を知らないのがよくわかった。植物学者に草花を尋ねると次々と草花の名を言ってくれるのを聞きながら歩く。「この爪草は形が違う、放射

能のせいかな」という声にドキッとした。大津波に破壊された東電の福島第1原発の放射能に汚染された地域が近いという事を忘れていた。そういうえば人吉を出発する前に「もう子供を作ることはないですか」とポツリと田中氏が言った言葉も忘れていた。

しかし除染されたこの地域は緑に包まれた静かな安全な農村地帯であるが、人や若者が帰ってこない農村の景色だった。南相馬市は放射能と生態系の変化の測定を続けている。

JR常磐線の踏切を渡り国道6号線に出た。津波対策の堤防嵩上げの為の大型ダンプが切れることなく現場に向かう。千倉の仮設住宅を右側に見て鹿島駅の踏切を渡って加藤家に帰る。

外来語から学ぶ英単語 (13) …… 藤原 宏

グレード・グレーダー・デグリー・グラデュエート・グラデュエーション
 grade grader degree graduate graduation

等級を上げる意のグレードアップは和製英語で、正しくは **upgrade** (アップグレード) といいます。**grade** は名詞として「等級・段階・度合」の他、学校の「学年・成績・評価」の意で、また動詞として「等級をつける・採点する・傾斜を減らす」などの意で使われます。

grader (グレーダー) は「**grade** する人・もの」を意味し、「(学校で) …年生・地ならし機」などのことです。

degree (デグリー) は「**de** (下げる・分ける意の接頭辞) + **grade**」から成る一種の複合語で、「度合い・度数・学位」などを意味し、「**a doctor's degree**」(博士号)、温度計で「**thirty two degrees F**」(32°F・カ氏32度)のように使われます。

graduate (グラデュエート) は、「**grade** (等級・学位・度合) を取る」が原義で、動詞として「等級をつける・卒業する・目盛りする」、名詞として「卒業生・度盛り器」などを意味します。

graduate の名詞形が「**graduation** (グラデュエーション)、卒業 (式)・等級づけ・目盛り」となります。 (379)



— 戦時中の特別高等警察の誕生か? —

「テロ等準備罪」は密告社会となるかも知れない法律。
 十分な説明をして欲しい。

うっせ…
 げっかん・ぎびょう

○朝食

ウォーキングから帰ると1階の広間に朝食の準備が出来ていた。五賀国子さん鈴木正子さんに準備していたのだ。お二人とも津波で家屋敷が流失、家族は無事だった。仮設住宅に住んでいたが今は新居を造られ引越された。食卓には昨夜の祝賀の宴で飲み過ぎたことを考慮して朝餉の準備がしてあった。東北ならでの食材を使っていた。浅学でここに文字でグルメレポートができないのが残念だ。

○小高地区に向か

除染で居住可能になった農家の泉勝明さん(千



放射能除染した土を黒い袋に詰めた仮置き場



小高神社

倉の仮設住宅の自治会長) 宅にお邪魔する。放射能汚染地区から3日前の7月12日に解除になったばかりの小高地区だ。人もいないし、車1台も通らない。動いているのは放射能除染の重機だけで、放射能を除染した土を詰めた1トもの黒い袋が田圃にうず高く積まれた光景を見ると不気味である。中間処理施設ができていない

ので当分はこの光景を至る所で見るとであろう。

○小高神社に詣でる

途中相馬小高神社に参拝する。第16代当主相馬義胤が本城を牛越城、中村城に移転するまで約260年に亘って相馬氏の居城であった。境内にガードマンが立っていた。立入禁止地区かと思ったら「TBSの音楽の日のライブ」のリハーサル中だった。中居正広・安住紳一郎の二緒に歌いませんか」という音楽番組だった。東北出身の大友康平さんが「故郷の復活を信じる小高の人々へエールを送るべき応援歌『ff (フォルテシモ)』」を熱唱しますというチラシを頂いた。

(つづく)

【なす・ちはる／人吉市】

「西南戦争」百四十年 ①

益田啓三

明治十年の西南戦争から今年は百四十年目である。歴史的に見るとわずか百四十年前の事だが、日本最後の内戦が郷土を巻き込んだ悲惨な戦争だったことは、はるか彼方の事柄のように実感として思えないのが大方であろう。

この戦に、薩摩と肥後細川の大藩に挟まれたいかにも小藩の人吉藩はどのような判断を下し行動したのか、そして薩軍に従軍した旧相良藩士の人吉隊、そして唯一官軍の参謀として人吉攻撃に加わり、わが子や兄弟、親類と戦うこととなった「新宮簡」を追ってみたい。

幕末から明治に至る激動の時代に特異な人生を送ったのが簡で、彼は第三十一代当主相良長寛の孫に当たるのだが相良家臣新宮家の養子となり家を継いでいる。若き日は勤王の志士と交わり、また藩政に携わり藩主近く

仕えている。薩摩藩が西郷隆盛や大久保利通など多くの有名な人材を輩出し明治維新を成し遂げたが、その隣藩にあつて人吉藩では何もしなかつた訳ではなく、情報収集や軍備に非常な努力を行っているがその流れについていけず汲々としていたように見える。

明治四年（1871）

七月 廃藩置県、人吉県となる。相良頼基上京する
十一月 八代県に人吉を合併。新宮簡が出張所長となる

明治五年（1872）

四月 新宮簡、八代県大属に任せられる

明治六年（1873）

十一月 西郷隆盛、征韓論に敗れ鹿児島に帰る

明治七年（1874）

六月 西郷隆盛、鹿児島に私学校を開校する
十二月 新宮簡、陸軍中尉兼裁判中主理となる

明治八年（1875）

二月 新宮簡第二課勤務となる 従七位に叙勲
九月 新宮簡、四国丸亀勤務となるが脚気のため辞表を出す

明治九年（1876）

十月二十四日 「神風連の乱」起こる
旧肥後藩士、約百七十名によつて結成された「敬神党」により明治政府の廃刀令などに反対して熊本鎮台などを襲撃した土族反乱のひとつで、この事件を契機として「秋月の乱」「萩の乱」が勃発し西南戦争へと繋がっていく

明治十年（1877）

西南戦争起こる
一月 私学校党、鹿児島で暴挙勃発する
二月 西郷隆盛の薩軍、鹿児島を出発する

いよいよ西南戦争の勃発である。一月に熊本隊として薩軍に加わる池辺吉十郎と佐々友房は鹿児島からの帰りに人吉へ立ち寄り、相良家重臣であつた那須拙速と会い近況を論じている。おそらく薩軍に味方するよう説得されたのではなからうか。

『拙者儀今般政府へ尋問の廉これ有り、明後十七日県下発程陸軍少将桐野利秋、篠原国幹、及び旧兵隊の者随行致し候間、其臺下通行の節は兵隊整列指揮を受らるべく此段御照会に及び候也 明治十年二月十五日 陸軍大将 西郷隆盛』
熊本鎮台司令長官

これに対し明治政府は、

『鹿児島県暴徒兵器ヲ携其県下へ乱入逆徒頭、然ニ付本日征討仰出サレタリ此旨相達ス』 明治十年二月十九日 三条太政大臣』

「右の通本日電報を以て御達成され候条此旨御達候事 熊本懸令」

と、「征討令」を出している

明治十年 二月二十日

西郷隆盛人吉着 「人吉方限見物人夥敷出張有之」

陸軍大将の西郷隆盛が人吉に来たのである。住民が大騒ぎし、町中が興奮したに違いない。しかし、人吉の武士たちはすぐに薩軍に参加をしていない。官軍に付くか薩軍か、旧人吉藩重臣たちによる喧々諤々の議論を重ねている。

人吉藩は明治元年の戊辰戦争では官軍の一員として、瀧川俊三を隊長として出兵し京都から東京そして会津若松城の攻撃にまで参戦し数名の戦死者を出しているのである。この経験から官軍の軍事力の程は当然分かつて

てゐる。

「西郷隆盛通行……当村人夫ヲ出ス事凡ソ千五百人兵器並ニ糧食等ヲ運送シ……其賃銭ハ多ク無賃或イハ低賃金等ニテ……」

また「姓名不詳ノ某ノ脅迫ニ因リテ草鞋又ハ味噌類 畜鳥ヲ出ス事数フベカラズ」とあり

戦の記録は武士階級のみ伝えられがちであるが、その裏に軍役人夫として強制的に徴用され働かされた庶民があつたのである。この戦争で人吉球磨の人々がどれくらい「被害」を蒙つたのであろうか。庶民にとっては甚だ迷惑であつたに違いない。

(つづく)

《参考資料》

「薩南血涙史」「新宮家資料」

【ますだ・けいぞう／人吉市九日町】

いたはずである。だが人吉藩は昔から薩摩との結びつきは深く、人吉の藩校を出た若者はさらに薩摩の学校や学者に教を乞う者もあり、考えが薩摩寄りになるのも否めない。さらには文久二年（1862）に起こった「寅助火事」により人吉城下が焼土となり、その復興のために尽力してくれたのが薩摩であつた。

私の想像だが……そのときの議論は、

「薩摩には寅助火事の時に助けてもらうた恩義があるうもん！」

「そうじゃここで起たねば面目がたたん！」

「ぼつてん、官軍の力は強力ばい、勝つどか？」

「西郷どんが起れば全国の武士が蜂起して来ると心配にや〜」

といった雰囲気議論がなされたのではなからうか。勿論、国家大義についても議論されている。

明治十年二月二十一日

朝、薩軍は球磨川を下り八代へ向かう。

この薩摩の人吉通過について大畑方面の戸長が報告し

球磨の珠玉



カバー写真／山口啓二
■A5判／上製／400頁
■定価 2,100円（税込）
送料 200円

人吉中央出版社

長年にわたり地方紙の記者として政治文化、教育など、幅広い分野から情報を発信した著者の珠玉のコラム集。14年間「週刊ひとよし」の巻頭を飾ったコラム370本を精選した一冊。

伊勢戸 明著（企画）人吉球磨総合研究会

くま春秋

—人吉・球磨を見つめつづけて

発行・人吉中央出版社
発売・風行社

江戸時代の事件簿

百姓たちの集団的訴え

享保15年（1730年）2月、旧上松求麻村（現八代市坂本町の一部）内で、ある事件が発生した。

鎌瀬村の文之丞と荒瀬村の三之丞が頭取になり、村方役人（大門村の頭百姓、志夫村の頭百姓、坂本村払方役）の年貢・諸出銀の取り扱いに問題があるとして、上松求麻村内の百姓たちが大挙して八代城下に押しかけ松井家知行方役人に訴訟の書付を差し出した。文之丞、三之丞の両名に加えて、訴えの書状を起草した豊原村の理平、松井家役人に書状を渡した荒瀬村の

惣四郎の四名は高田の牢で病死し、頭百姓二人と他に二名の四名は過怠の罪を言い渡された。払方役と他の百姓たちは昨秋の御祝事の恩赦で放免になった。

現在の感覚からすると、この事件は理解しにくい。文之丞らは、村方役人たちは年貢のきまり札（年貢額を書いたメモ）を百姓に渡さず、それを川に流して自分たちが収めるべき年貢の額を分らないようにしたと主張した、調べてみたが、彼らの訴えが正しいのかの結論を出せなかった。他方、文之丞らと行動を

ともにしなかった村もあった。役人は、再度、訴状を出すように百姓たちに求めたが、前の訴状のとおりであるといつて、訴状を提出しなかった。そこで、本格的に調べるため文之丞らを牢に入れたというのだ。

鎌瀬村（球磨川第一橋梁附近の地域）から豊原村（県立清流高校附近の地域）までの広範囲の地域の方が関与しているところをみると、統制のとれた行動のようにみえるけれども、訴訟に参加しなかった村（現在の集落に相当する）もあるなど上松求麻村全体のまとまった行動になっていない。集団的な訴え自体、当時にあつては適法であるとは考えられていないことを考えると、文之丞らの行動はいくぶん軽率のようにみえる。年貢納入の責任者である払

い方が恩赦を受けていることを考へるとき、いつそうそのようにみえる。集団的行動に対して、首謀者（頭取たち）に直ぐに入牢を命じることなく、松井家が訴えの内容を調査している点も気になる。穩便に紛争を処理したいとの思惑がそこにはあつたのだろうか。

（編集部）

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

曇り空春作近し木々そよぐ風の様みて野に出てゆく
剪定で姿かたちに風通り自然のなかでみゆき桃に

三原 竹二

山裾の見知らぬ村を歩くとき紅梅白梅あちらこちらに
見上げるとあまりに月の美しき散歩しようと夫を誘いぬ

坂本 ケイ

真つ直ぐに天を向きたる水仙に曲がりたる腰伸ばして見せり
朝餉終えふと窓外に目をやれば眠りし木々にさ緑の見ゆ

上田 迪子

お別れの遠足の児ら声合わせ大型バスに歌声弾む
ほのあかく残雪の峰輝いて春一番は駈け降りて来し

宮川しのぶ

あれこれと言ひ訳ばかりのアベ総理身内かばいて嘘われおりぬ
狭庭からふんわり匂う梅の花水もゆるみて春はそこまで

吉岡 弘晴

核持つな核持つ国のこの理屈解せざるままに年は明けたり
幼稚園児が教育勅語を唱えいる映像流るる寒の戻りに

上田 精一

東京オリンピック⑫

参加国の大使館と小学校の交流

荻田吉富

今回は、150ヶ国以上の駐日大使館が立地する東京都の子どもたちが大使館と連携して、国際交流体験の機会を届ける「特定非営利活動法人CMC (Children meet countries)」の活動を報告します。

平成28年11月4日、品川区立浜川小学校において内閣府認証・特定非営利活動法人CMCは、駐日ギリシャ大使館の3名をお招きして、6年生62人を対象に、東京都教育長より支援を受けている「世界ともだち

プロジェクト」の第24回交流イベントを行いました。

このイベントが東京都教育委員会の「東京都オリンピック・パラリンピック教育」の一環であるとの校長先生の挨拶の後に、CMCの岡田珠樹さんの司会で、ディオニシオス・プロトパス参事官にギリシャという国についてのプロジェクトと展示物を使ってのプレゼンテーションがあり、次の



交流イベントの様子

で児童からの質問やクイズの勝ち抜き戦などが実施されました。

参事官からのギリシャの紹介ではギリシャ共和国は主にラテン語系の言語を母語とする民族が住んでいる地中海沿岸の東の地域で、エーゲ海に面し、面積は130万平方キロで、日本の約3分の1、人口は約1千万

人で公用語はギリシャ語、首都はアテネでユーロ圏に属している。オリンピックで演奏されるギリシャ国歌は自由への賛歌で、オリンピックで掲げられる国旗は青と白の十字及び縞で構成されているそうです。

参事官からは続いてオリンピック発祥の地としての古代オリンピックの説明がありました。オリンピックの開会式の選手入場の際にはギリシャが最初に登場します。

古代オリンピックでは紀元前9世紀頃から4年に1度、休戦期間を設けてギリシャ各地から参加し、レスリングやボクシング・投げやり・戦車競争が行われ、勝利者へはオリブの冠が与えられたようです。

また古代オリンピックはオリンピック祭典競技は多くの神々を崇めるた

めの、神域における体育の競技祭で、競技は男性のみで体にオリブの油を塗っていたそうです。

競技はスタディオンで行われ、当初はスタディオン(約191メートル)のコースを走る競走のみでしたが、やがて中距離やペタスロンといわれる短距離競走・幅跳び・円盤投げ・やり投げ・レスリングの5種目を一人の選手がこなす競技が追加されました。

休憩をはさんでアクティビティとしてギリシャのハンカチゲームを児童が体験しました。

A組とB組の二つに分かれて、真ん中にハンカチを置き自分の陣営に持つて帰るといいますが、ハンカチを持つている人にタッチするとその

ハンカチが自分のものになるというもので先に十取った方が勝ちというゲームでしたが、実力伯仲でなかなか決着がつきませんでした。

品川音頭という生徒のお礼企画の踊りの披露の後、プレゼント交換とお礼の花束贈呈、大使館からのメッセージ、記念撮影があり、大使館員退場となりました。

このような東京都が行っている世界友達プロジェクトは世界の多くの国々の様々な人種や言語、文化や歴史を学ぶことを通して、単に知識を広げるだけでなく世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解するものです。

【かりた・よしとむ／税理士・行政書士、東京都】

気のおもむくままに 齢八十二年生の雑言^{よわい} ①

富永和信

「私の折り合い」

私は決めた。これからは満願成就を夢見てトリプル3Pを目指して自己努力をするべくそのため三大目標を立て、邁進してまいろう。

- 一、これから女房孝行に徹し、偏食の過大飲食（暴飲暴食の一步手前）を抑え家内の食育管理に従順に従う、
- 二、これまで以上に好奇心を旺盛にし趣味の歴史探訪とゴルフに精を出す
- 三、最後のつまるどころ天地神仏の

ご加護に頼るしかないのです、これまでの非礼を詫びて心からお願いをする

かくして、私は今日も「どうか家内がいつまでも元気でありますように、そして私も元気な内に家内より一足先に旅立ちますように」と参拝しているのである。
なぜかと言うと、経験則から断言できるからである。夫婦どちらかが先に旅立つかは人生最後の始末として極めて大事な結末となるからである。

これまでの実例から特に亭主関白、グータラ亭主が先の場合、残った夫人は後家業といい益々元気になり余生を有意義に過ごすという。また主人の旅立ちに涙が無かったのに、可愛がついていたベットの猫の死に3日間涙にふせつたというではないか。
さて、逆の場合、奥さんに先立たれた亭主は全くの役立たずで生きていくための生活力というものが無いので精神的肉体的に健康を崩し、昔日の面影無しの哀れな結末を迎えることになることが多い（私の親しい友人もそうであった）。こうしてみると男性の場合は特に最後は女性の力に頼らざるを得ないという甘えとエゴがでてくることを否定出来ない。

もちろん、異論ありとの声が出ることも承知のうえで。こんな不謹慎なことでは多分神仏のお怒りに触れ、天罰の恐れがあるかもしれないが、そこをなんとか浅薄にして哀れな小人として憐憫の情をもってお許し賜りたいと心から念じているのである。

人の意思として大袈裟にしないようにとの思いの段取りであった。しかし故人の徳もあつて数百人に及ぶ参列者の葬儀となった。まわりの関係者の方と葬儀社がそれを許さなかったのである。

「終末と葬祭」

それにして人間はかくも葬祭にこだわるのであろうか。

私の尊敬する先輩のひとり、病床につく以前から終末と葬祭（自分の）について誠に要領よく段取りをされていた。葬儀に当たっては全て誰それに頼むこと、案内状にお知らせの名簿、香典の辞退などを実に見事に生前手配をされていた。本

また他方では葬儀だけはなるべく盛大にするようにと事前から準備されていてその通りの儀式になった例もいくつもある。人はなぜ故人はいざしらず残された家族はもちろんまわりの関係者は形式にこだわり大袈裟にするのであろう。やはり人生最後を飾る、つまり現世から黄泉の世界に送り出すフィナーレの最後を飾る儀式であるからであらうか。

私自身、最後の儀式は大事なことで思っている。思っているからこそ形式にこだわらない心のこもった

送り方があつてもよいのではないかと考えている。
現在、家族葬や樹木葬なるものが多くなっているがこれなど日頃の人間関係、経済的理由からであるが現実的であり一考を要する課題と思つ。

私は何をいわんとするのか、総論から言えば旅立つてからの葬祭より終末に至るまでの個人個人の生き様がどうであるか、このことが最も深刻で大事なことではないかと思つている。

「わしも間に合わんといけんから早いうちに段取りをしとかにやならんばい」ご同輩。

【とみなが・かずのぶ／人高五回生】

女裁判

上村雄一

封建時代のなごりもあつてのことか、昭和30年代頃の田舎では男たちだけでムラの約束事や物事を決めることが少なくなかった。家族(身内)で話し合つていても、男たちが家族を代表して、あたかもそれを自己の意見であるかのように話していた。隣地との境界争いが生じたときなどは特にそうであった。過疎化がすすみ山間部の土地の価値は急落し、そうした争いは少なくなったが、いまでも、そうした傾向が皆無になつたわけではない。

土地の面積や場所はそこで生活する家族・親類・一族の生活基盤そのものであつて、他の家族など対立し紛争にならなかつた。そういうときには登記簿にしたがえば争いなど生じないようにみえる

在しない村落共同体も存在する。現実には、そうした例がほとんどであろう。そういう共同体にも指導者はいるけれども、そうした指導者は交代するのが普通で安定的ではない。

共同体内のもめごとを人々がどのようにして解決してきたかを十分に知っているわけではないが、女たちが重要な役割を果たした例は確実に存在した。私が生まれ育つた地域がまさにそうであった。その地域では、対立が生じて男たちがその対立を解決できない確定的状況にいたつたときには女たちが登場することになつていった。そのときには男たちは発言権を失い、女たちが結論を下した。それは「女

かもれないが、それは、現在の発想である。そもそも維新政府は「地租改正」(明治6年)時に登記簿を急いでつくつたのであつて、そのために、事実を正確に反映しない登記例が多分にあつたし、相続や売買がなされても登記簿にそれが記載されない例がずいぶんあつた。測量や記載のミスもあつた。昭和26年に「国土調査法」が制定されたのち地籍調査が始まり、ようやく、現在の意味での土地制度が整いはじめた。しかし、同法にもとづく調査はいまでも終了しているわけではなく、近代化は未完のプロジェクトにとどまつている。

生活基盤であるだけでなく、土地はご先祖さまから受けついできたものだ。境「裁判」とよばれていた。女裁判の結論は最終的で、だれもそれをくつがえせなかつた。男たちはそれにしたがわなければならなかつた。どのようにして、そのような仕組みのできたのであろうか、それは分からない。男たちの「話し合う」が行するのであるから男女同権ではなく、女性専権でもない。現代風にいえば、女たちは共同体の崩壊を食い止めるゴールキーパーになるか。エラ夫人たちの『須恵村の女たち』(御茶ノ水書房)に参考になる話は載つてないかと久しぶりに同書を再読したが、手掛りにかりになるものを見つけれなかつた。読みこなせていないのかもしれない。

界線についての争いがいつたん発生すると、たいていの場合、紛糾することになつた。そのとき男たちは頑固で、合理的に考えようとしなかつた。男たちの「話し合い」はときとして「諍い」になり「ケンカ」になつた。それまで仲のよかつた隣人たちが地籍調査をきっかけに気まずくなつた例が少なくないことは周知の通りであろう。

男たちの対立状況がつづく、村落共同体(ムラ)の秩序は維持できなくなり、殊に小さな社会では共同体は解体に向かう。力の強い者が強引に土地を奪うときもあつたし、いまでもある。しかし、それは長続きしない。暴力は土地支配の正当性を保証せず、むしろ否定する。あるいは、共同体の長(オサ)が争いに裁定を下すときもある。マックス・ウエーバーのいう「名望家」がいるとき、その者は権威的存在にほかならず、その者による裁定は正当性を確保する。けれども名望家の存

底にあつたにちがいないが、いましばらく、結論をださずにおこう。いずれにせよ、「女裁判」は少し前まで現実に存在した。

アリストパネスは『女の平和』で、女たちが男たちに戦争をやめさせる喜劇を書いた。アリストパネスの時代(古代アテナイの時代)、アテナイはスパルタと戦いをくりかえし崩壊の危機にあつた。男たちは「国のために」闘つたが、女たちには守るべき「国境」はなかつた。女たちは国を超えて同盟をむすび、男たちに戦争をやめさせる行動ができた。女たちの行動は成功した。どういう作戦で彼女たちが勝つたのかは、アリストパネスの作品を読めば分かる。『女の平和』の原題は「リューストラテ」で、「リューシス」は「解体」、「ストラトス」は「軍隊」を意味する。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】



女は争いを好まず平和を求め、といった牧歌的な理由で「女裁判」が始まつたのではあるまい。女性労働の重みが根

荷把枝迫 (ニハシザコ)

— 相良村深水 —

このシリーズ⑧ (本誌第9号) で宿題とした「荷地名」の解明に取り組んでみる。相良村深水字荷把枝迫



は同村川辺および山江村山田乙この境界に位置する。川辺側の小字は境界石にちなむ立石(タテイシ)、山田乙は①(本誌創刊号)で述べたように境界の水縄(ミノウ)と考えられる養原であるから、対応する荷把枝迫も村境表現の地名と推定できるものの、その意味のナゾ解きには手こずった。

球磨村神瀬字荷伐(ニギリ)については近くに字杣ノ鼻(ソマノハナ)があることから「境界のそば(ニキ)の表現」としたものの、他の「荷地名」の関連が説明できず、気になっていた。ところが漢和辞典を操って眼からう

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版です。市町村合併前の地名となっておりますが、ご了承ください。

ろこが落ちた。荷は漢音カ、和訓二と小学生のころ覚えた知識を半世紀以上も疑念なく通してきた。いまさらの思いを捨てて漢和辞典を引いたところ「荷 カ ①ハス、ハチス ②荷なう」とある。何のことはない、荷地名は区域の端を表現するハスの当て字だったのである。

この考えを余すところなく証明するのが荷把枝迫であろう。荷はハス、把枝は端(ハシ)の二文字表記とみれば、荷把枝はハシバシ(端々)となり、端々は隅々(すみずみ)と同じく同語の重複であって端(はし)と言うのと意味は変わらない。だから荷把枝

迫はムラの端つこの迫の意であろう。字図を見ても、現地の地形を検分しても、荷把枝迫はムラ区域の先端の迫地である。

現代ではハスは蓮根(レンコン)のこのように思われるが、語源としては蓮実の房が蜂の巣のような形状であるのを表現したハチスが略されてハスになったもので、蓮(はす)よりも荷(はちす)が古いようであるが、『萬葉集』では蓮と荷は混用されている。

勝間田之 池者我知

蓮無 然言君之

鬚無和之(巻十六 三三三五)

かつまたの いけはわれしる

はちすなし しかいふきみが

ひげなきごとし

久堅之 雨毛落奴可蓮荷爾
淳在水乃 玉爾似有将見
(巻十六 三三三七)
ひさかたの あめもふらぬか
はちすばに
たまれるみづの たまににたるみむ

ハスは古い時代に中国から伝わり、

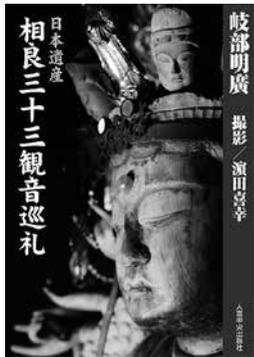
初めは荷の漢字が当てられていたのが後には蓮に主座を譲ったものの、ハチスの原義が荷であることは忘れられずに残ったのである。球磨地域でムラ境の迫地を荷把枝迫と表記するようになった年代は不明であるが、養原を箕意之原と表記するのと一脈通じる気もする。

ハスは仏教とも関係が深く、極楽のシンボルフラワーは蓮花であり、蓮実の房は蓮台(はちすのうてな)として仏座とされた。荷把枝迫というナゾめいた表記にはこのような仏教思想との関連性もあるのだろうか。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

さあ、巡礼の旅に出よう。

相良三十三観音と人吉球磨の「日本遺産」を熱く語った
ずしりと重いガイドブック



■A5判/上製/400頁
■定価2,100円(税込) 送料200円

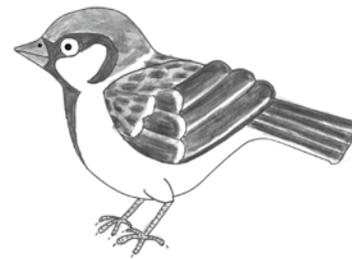
〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL・FAX0966-23-3759

人吉中央出版社 info@hitoyoshi.co.jp

うちかぶせ

うち(家)ん巢ば作つとはスズメとツバメん居つて、ツバメは「田んなかん虫ば捕つてくる」とじやつで「ゴミジュウじゃ撃つちやあなん」ちゅうてむぞがられ(可愛がられ)おつたで、じゃろかしらんツバメはいばつて玄関の鼻先んでちや巢ばかけおつたで、巢から子やクソのつこけん(落)ごてえ下から板ばうつつけてくつおいやいた。

泥をばちつとづつ啗えつきちやあ巢ば作つおつたで、ほつとも(飽きる)せじにや見とつおつた。



スズメ

子のん(産)まるれば親はつう(飛ぶ)どる虫ば捕まえつきちやあ、面じゅうば口んして待つとつやる子に餌ば食わすつとないどん四・五匹もおつてえどれえ

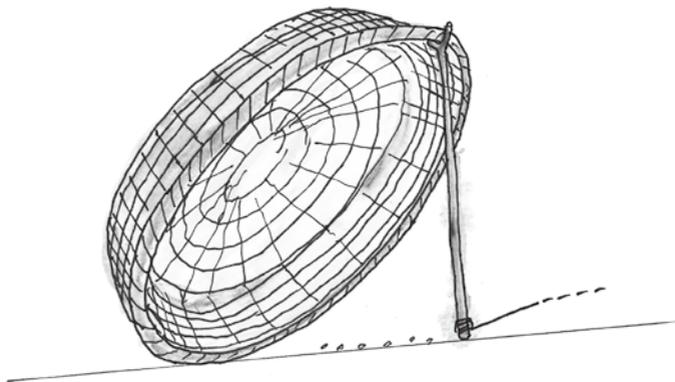
食わせたかん判つとじやろうかしらん、おどんから見ればどんもこんもおんなじ(同じ)んしきや見えんとないどんが、よししたもんでおんなじんごてえして餌ばもろうた子はおんなじん日に巢からつうで出ていくとじやつたで、親はどれえ食わせたかのわかつとつとじやろうたい。

スズメも産まれた子どんに食わすつときにや青虫んぐたつとをば捕つて食わせたでよかつたいどん、子の巢から出て秋んなつまじや草の実やらひるうて食いおつたいどんが、稲や粟・キビんぐたつとん実の熟れだせば、だつ(誰)よまあ早よう知つとつてえ、村中のスズメのよつてたかつて穂にぶら下つて、人よまあ早よ

う食いおつたで「ゴミジュウで早よういたて撃つてけえ」て云いやんもんで、オトシにや玉んなる石ばずびやあ詰めこうで、村じゅうん田んなかやら畑ばゴミジュウで撃つておつばるうてきおつた。

一斗ジョウケばなんもせじにや伏せて置き、そののぐるりんモミばみやあて置き、隠れて見とればスズメんおじつて(降りて)きてみやあとつたモミ

ばうち食うてしもうたなつば、こんだあ一斗ジョウケんかた一方ば一尺ぐりやあもたげて、そ



うちかぶせ

けえ一尺ぐりやん棒に紐ばいつけたとばツツパリんしてシヨウケのうちかぶせの下んモミばちつたあ

たくしやあみやあて、ぐるりにやちつとみやあて、紐ば握つて隠れてみとれば、スズメんよつて来てぐるりん方から食いきやうつたて、だんだんシヨウケん下ん餌んとけえピョンピョンつうできて食いきやあうつたちおつたで、なつだけええと(多く)下んひやつた時ん紐ば引つばれば、何匹かはバタバタやつてシヨウケんなきやひやつつたで、シヨウケばちつともたげて手ば差しくうで捕まえんばなんとないどん、差しこうだ腕ん間から逃ぐつとのおつたで、ほんどから捕まえがなつとは一匹ぐりやあじやつた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

くまがわ学習塾 ④

問1 () を埋めよ。

- 1、柴立姫神社は球磨村 () 地区にある。
- 2、須恵村を研究したアメリカの文化人類学の研究者は () 夫妻である。
- 3、西南戦争の鹿児島軍の指導者は西郷 () である。
- 4、石水寺の海棠は () 科の植物である。
- 5、今年4月2日に八代市坂本町で開催されたイベントの名称は「() フェスタ」である。

問2 ○か×か。

- 1、漱石は地震に遭ったことがある。
- 2、日本で最初の本格的辞典は大言海である。
- 3、物理学者のアインシュタインと心理学者のフロイトは戦争について手紙を交換したことがある。
- 4、肥薩線の海路駅は球磨村内にある。
- 5、今年の八十八夜は5月2日である。

問3、() を埋めよ

- 1、八代市の遥拝神社、古田神社、藤本五社神社の鳥居は () 時代に創建された。
- 2、3月3日は () 節句といい、5月5日は () 節句という。
- 3、八代市坂本町の鶴之湯旅館は昨年 () 月 () 日に営業を再開した。
- 4、人吉城の別名は () 城である。
- 5、八代城の別名は () 城である。

問4、○×で答えよ

- 1、故吉田茂元首相は安倍首相と麻生元首相の祖父である。
- 2、団塊世代が後期高齢者になる2025年には病院の病床数は増える。
- 3、日本の最高裁の裁判官の定数は10人である。
- 4、合併特例債は全額を政府が負担する。
- 5、八代市には市立病院はない。

問5、写真をみて問い答えよ

①撮影者と写っている人物の名前を書け



() と ()

③熊本国体時の写真である。会場と競技名を書け。



会場 ()
競技名 ()

⑤職業名を書け



()

②女性の職業を書け



()

④有名な画家である。名前を書け。



()

※答え合わせは次号でおこないます。
前回の答え合わせは94頁で。

★全問正解者には抽選で弊社の書籍をプレゼントします。ハガキ又は封書を弊社まで解答をお送りください。

鶴鴿短歌会

三月詠草

霜降りて冷たき朝に水鳥の声津々と霧の底より
琴の音に合せて歌うさくらさくら春の朝の静けさのなか

守永 和久

列島の最南端の佐多岬年の瀬の海あかく染まりて
初日の出海のしじまを破るごと日向の海ゆ湧き出ることく

河内 徹夫

脈々と「あのねせんせい」四十年園児とともに今年も生きる
幼きに吾を抱きて頬を擦る剃りたての頸の父を忘れず

中村美喜子

半々のお湯割り焼酎の心地よき五体に滲みて夕陽を裡に
内外の紙面脈はふ梅の頃吾打ち沈む老いの身なれば

西 武喜

淋しくて人恋う日々も多くあり介護する日も七年に入る
願かけた天神様へお礼参り二人で生きる幸せひと日

釜田 操

遠き道先祖訪ねて岡城へ城主はなんと緒方惟栄

我が姓のルーツ求めて豊後路へ父を誘いて緒方の町へ

緒方 保正

散歩路の里にお猿の群れてきて人をおそれず食べ物捜す
久しぶり友の声聞き逢いたい道が遠い道のかなか行けぬ

中原 康子

三度目のステント治療終へし時医師からそつと「元気でいて」と
里にきて路の躑やせり摘みながら母の素朴な料理思いて

三原 光代

ほとけの座朝露光り仏様祖母に聞いたよ子供の頃に
庭の梅春の足音枝先に蕾も見えて早くもメジロ

橋詰 了一

川底の小石までも輝きて春の小川はさらさら流る
病む妻の愛蔵の雛捜し出し飾りてやれば笑みもこぼれて

振田 英雄

倉敷便り ④

原田正史

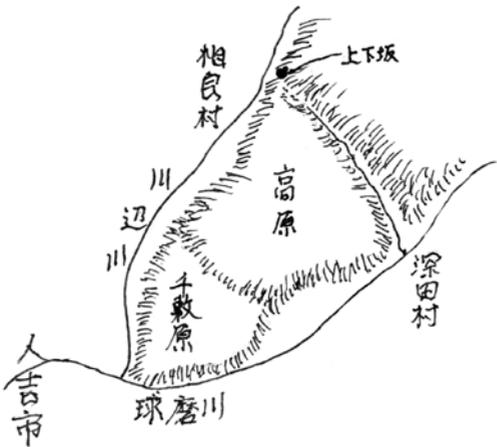
人吉海軍航空隊

今回から人吉海軍航空隊について
記述することにします。その理由と
しては飛行場の建設開始の昭和十九
年（一九四四）六月、熊本県立人吉

中学校（現人吉高校）に対して学徒
動員令が発令され、最上級生の五年
生（十七歳）だった私たちは、その
建設工事に従事し、同年九月からは
通年動員となり昭和二十年八月十五
日の終戦の日まで継続され、その間
人吉海軍航空隊に関わる数々の見聞
を得ています。その中には記録に残

されていないものが多く含まれている
のですが、これらの事を知るほとん
どの人がすでに亡くなっており、更に
存命の方がおられたとしても、その
ことを記述する人は少ないのではな
いかと思っただからです。

人吉海軍航空隊のあった場所は
図に示すように相良村の上下坂付近
を起点として、大昔に川辺川が人吉
盆地に向かって流れ下ることによつて
生じた扇状地にありました。この扇
状地は新旧二つの段丘面から形成さ
れており、古くて高い段丘面の地名
が高原であり、人吉海軍航空隊が存



在した新しく低い段丘面が千敷原
です。昔、相良家と平川家とが戦つ
た場所と言ひ伝えられ、草木が赤い
血潮に染まったことから血敷原と呼
ばれていたのですが、余りにも生々
しい地名なので後に千敷原と改めら
れたと言われています。

航空隊のあった千敷原が、高原と間違えられたのは、飛行場建設に際して郡内各地から奉仕作業にやって来た人たちが、高原の地続きだと思いきみ、高原と呼んだからなのです。次に人吉海軍航空隊で起きた最大の事件ともいえる新司偵逆転事件について記述することにします。

新司偵逆転事件

私たちは滑走路の横で、海軍が誇る最新鋭偵察機である新司偵の到着を兵士たちと共に、今か今かと待っていました。時は昭和十九年の中秋の頃だったと思います。新司偵という飛行機の名前だけは知らされてはいましたが、その他のことは全く不明だったのです。

し機体は、操縦席を支点としてゆっくり回転して裏返しになり、滑走路に激突しました。尾部と中部の風防は割れ、いずれからも真っ赤な血潮がしたり落ちて滑走を濡らしました。尾部の通信士は即死、中部の整備士は瀕死の重傷、そして皮肉なことに事件の原因者である操縦士は無傷だったのです。

この惨状を見た士官は、予科練生を呼び寄せました。数百人も予科練生は裏返しになっている機体の隙間に入り込み、号令と共に一斉に両手を高く持ち上げました。機体は見事に持ち上げられたのですが、その高さは人が両手を伸ばした高さであり、機体を逆転させる筈はないのです。自分の間違いだと気づいた士官は、ありったけのネジ回しを持って

やがて南西方向の空の一角に小さな機影が現れ、急激に接近して滑走路の上方に到達し、着陸態勢に入りました。ところが予想だにしない驚くべき事態となったのです。なんと新司偵は千七百メートル

の長さを持つ滑走路の最端部ではなく滑走路の中央部に降下して着地したのです。千敷原は台地ですから周辺部は高さ数十メートルほどの断崖になっています。滑走路の中央部に着地した場合には停止するまでの距

来させ、十人ほどの予科練生を上に登らせて裏側のプレートを剥がさせたのです。内部から血だらけの通信士と整備士が下ろされました。無傷の操縦士だけが元気よく機体から飛び降りました。

士官は予科練生に遺体を運ぶものを持って来るよう命じました。やがて持つて来られたのは時代劇に出てくるような雨戸だったのです。頭にくきた士官は、「馬鹿者が、こんなもので人が運べるか。担架を持つて来い」と怒鳴ります。その後担架が持つてこられ、通信士と整備士が載せられ運ばれていきました。

滑走路に飛び降りた操縦士は、若い少尉でした。これを見た年配の特務少尉が足早に駆け寄り、「貴様」と言うなりその少尉を叩き倒しまし

北御門 二郎・訳 トルストイ短編集

帝政ロシア時代の物語を北御門二郎の



「心訳」で贈る
現代人へのメッセージ

新たに編集された「カフカーズの捕虜」「神は真実を見そなわす」「舞踏会の後」「壺のアリョーシャ」「贖造クーポン」の5本を収録

レフ・トルストイ／作
北御門 二郎／訳
表紙絵／田口宏昭
北御門すすぐ・たえ子／編

■A5判／並製本／192頁
■定価 1,500円（＋税）
送料 100円

発行元：人吉中央出版社

離が足りず、東端部の崖下に転落することになるのです。

滑走路の中央部から勢いよく私たちの目の前にやって来た新司偵からはキーツキーツという高い金属音が響き渡り、急停止しました。しか

た。特務というのは兵士から成り上がり、退官した即ち少尉になった者をいうのです。更に昇進しても特務中尉であり、中尉ではないのです。海軍では同じ階級であっても、一日でも早く入隊した者が目上なので、その後、若い少尉はうだなれながら特務少尉の後について立ち去りました。

逆転した新司偵がどの様に処理されたのか、私たちにはその現場を見ることは許されませんでした。また重傷の整備士がその後元気になったのかあるいは、死亡したのかは不明です。

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

新特急の運行開始と
市鳥指定を記念して

新庄さんから写真集発刊

人吉市を飛び交う珍しいヤマセミの姿を捉えた写真集「人吉市の山翡翠——人吉市におけるヤマセミと人間の共創——」が、東京三鷹市に住む新庄俊郎さんの手によりこのたび発刊された。



新庄さんと人吉市の野鳥

愛好家らは、ヤマセミを人吉市の鳥にしたいと永年運動をしていたが今年3月、人吉市がこれに応え「市の鳥」に指定したことで、JR九州の新特急「かわせみ やませみ」が運航を開始したことを記念しての発刊。

ヤマセミの姿を10万カットを超える画像の中から厳選したものでフルカラー、124頁の写真集になっている。

読者10名にプレゼント

同写真集を、新庄さんと人吉市総務部企画課のご好意により読者10名にプレゼントします。巻末の住所までハガキでご応募ください。

前号【くまがわ学習塾③の答え】

問1、次の計算をしなさい。

- ① $15 \times 15 = 225$
- ② $25 \times 25 = 625$
- ③ $35 \times 35 = 1225$
- ④ $45 \times 45 = 2025$
- ⑤ $55 \times 45 = 2475$

問2、次の問題を解きなさい

- ① $a+b+c+d+e+f+g+h+i+j+k = 55$
- ② $a+k = 10$
- ③ $b \times j = 18$
- ④ $c+i = 10$
- ⑤ $d+h = 10$
- ⑥ $e \times g = 24$
- ⑦ $f = 6$

問3、次の問題を解きなさい

- ① $a+b+b = 20$
- ② $b+2c+2c = 9$
- ③ $b+c \times a = 15$
- ④ $a+a+a = 6$

問4、() を埋めよ。

- 1、今年、新憲法制定 (70) 年である。
- 2、球泉洞駅の旧駅名は (大坂間駅) である。
- 3、球磨村は、(神瀬) 村、(一勝地) 村、(渡) 村の三村合併により生まれた。
- 4、百太郎溝、(幸野) 溝は昨年11月に「世界 (灌漑) 遺産」に登録された。
- 5、(厚生会館) は、1962年、熊本県内初の公共文化施設として八代城本丸西隣に建設された。

問5、○か×か

- 1、明治維新後、八代県が設置された時期があるが、人吉県が設置されたことはない。(○)
- 2、相良家は海外貿易をしたことがある。(○)
- 3、重盤岩眼鏡橋は芦北町にある。(×)
- 4、山頭火は肥薩線を利用したことがある。(○)
- 5、開高健の処女作の舞台は八代の干潟である。(○)

問6、○か×か

- 1、漱石は、小説中に、大槻文彦『言海』を登場させたことがある。(○)
- 2、日奈久には「温泉神社」がある。(○)
- 3、白石駅は球磨村にある。(×)
- 4、瀬戸石ダムは球磨村(右岸)と八代市坂本町(左岸)の設置されている。(○)
- 5、「上葦」という地名は芦北町と球磨村の両者にある。(○)

問7、() を埋めよ

- 1、原敬は、(岩手) 県の出身の総理大臣である。
- 2、岸信介のあとの総理大臣は (池田勇人) である。
- 3、「百濟王氏 (くだらのこにしき)」は百濟出身の氏族である。
- 4、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康は、現在の (愛知) 県の出身者である。
- 5、ルイス・フロイスは (ポルトガル) 出身のイエズス会士である。

問8、関係するものを線で結べ

- | | |
|---------|------------|
| ① 田山花袋 | イ. 八代城築城 |
| ② 井上微笑 | ロ. 山田伝助 |
| ③ 高木惣吉 | ハ. 連歌 |
| ④ 小西行長 | ニ. 人吉駅前時計台 |
| ⑤ 犬童球溪 | ホ. 柳田邦男 |
| ⑥ 加藤正方 | ヘ. 荒瀬ダム |
| ⑦ 澤田一精 | ト. 東条英機 |
| ⑧ 西山宗因 | チ. 横井小楠 |
| ⑨ 西福寺 | リ. 夏目漱石 |
| ⑩ 徳富蘇峰 | ヌ. キリシタン |
| ⑪ 線香屋定吉 | ル. 写真家 |
| ⑫ 東儀一郎 | ヲ. 旅愁 |

編集後記

熊本地震から一年、8000回を
超える大小の余震、今も仮設に住む
人が約7600人といわれている。

人吉市は揺れなかったが4月9日の夜も熊本市で震度3の揺れがあった。今号18頁の須藤久仁恵さんの「二年すぎた」を読むと、ある場所では地震のことを忘れさせるが、場所によっては復旧工事の現場になっていたり、郊外のあちこちはまだ手つかずのところも多いという。『ガラガラツと揺れる大地にうずくまり必死で耐えた夜。あの混乱をよくぞ乗り越えたものだ』という文章には、胸が締めつけられた。★そんな恐怖の春もあったが、グラビアで紹介したように、今年の4月は各地で、遅れ来た春を楽しむ行事が多くあった。今回は取り上げきれなかったが、人吉市石水寺の「海棠まつり」や大畑駅の「桜まつり」も賑わった。★さて本格的な春も来て、今月末からはゴールデンウィークも始まる。復興支援も兼ねての小旅行、色んな場所に出かけようではないかと提案したい。(ま)

〒868-0015
熊本市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

インフォメーション

- 4月16日(日)
 - ▽田野高原「ワラビ狩り開放」(5月31日、人吉市田野町)
 - ▽織月カプシニングルステニストーナメント(人吉市村山公園テニスコート)
 - ▽やまえつじ祭り(山江村丸岡公園一帯)
 - 4月21日(金)
 - ▽「円山心挙」京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展「たたび」(6月4日、八代市立博物館未来の森ミュージアム)
 - 4月23日(日)
 - ▽相良村議会議員選挙投・開票
 - ▽熊本地震復興支援チャリティー・特別講演会(人吉市カルチャーパレス)
 - 4月29日(土) 昭和の日
 - ▽球磨川ラフティング安全祈願祭(球磨村)
 - 人吉お城まつり(人吉城跡ふるさと歴史の広場、九日町通り一帯)
 - ▽メーデー「人吉球磨地区集会」(球磨村マウンドーム)
 - ▽第12回ゆのまえ潮おっばい祭り(湯前グリーンパレス一帯)
 - ▽しゃくなげ祭り(水上村江代)
 - 4月30日(日)
 - ▽人吉お城まつり(人吉城跡ふるさと歴史の広場)
 - ▽春季連盟杯軟式野球大会(人吉市川上哲治記念球場)
 - 5月1日(月) メーデー
 - 5月2日(火) 八十八夜
 - 5月3日(水) 憲法記念日
 - 5月4日(木) みどりの日
 - 5月5日(金) 子どもの日・立夏
 - 5月7日(日)
- ▽急流鍾乳洞の里まつり(球磨村・球泉洞一帯)



TAKEDA Eye Clinic

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア 榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

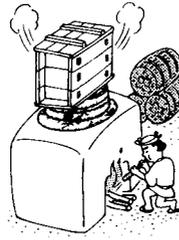
ケアプラン作成所いずみ
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の枝



御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)



◆納豆みそ (お徳用) 300円 (税抜)

◆みそ煎餅 477円 (税抜)



◆納豆みそ 477円 (税抜)

◆納豆みそ (お徳用) 300円 (税抜)

◆みそ煎餅 477円 (税抜)

人吉散策コース 九州和食 蔵めぐり

みそ・しょうゆ蔵

資 会 社 釜 田 醸 造 所
会 長 釜 田 元 嘉 顕
社 長 釜 田 顕

〒868-0001 熊本市人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp